

0001

6-1 設計条件・敷地・法規 > 要求室・面積・設計条件整理 | 難易度：基礎

設計製図課題で要求室ごとに「面積は適宜」と「約○㎡」が混在している場合の最初の整理として、最も適切なものはどれか。

ア．面積指定の強い室と裁量の大きい室を分け、必要面積・配置条件・利用者・隣接条件を一覧化する。

イ．全室を同じ面積として扱う。

ウ．面積条件を読まず、先に柱割りだけを定める。

エ．『適宜』とある室は計画しなくてよいと判断する。

答え・解説

正答：ア

ア：要求条件の強弱を整理すると、面積配分とゾーニングの優先順位を判断しやすい。

イ：要求条件を無視しており合理的な計画にならない。

ウ：要求室が収まらないリスクが高い。

エ：要求室であれば面積裁量があっても計画は必要である。

総合解説：エスキス初期では、要求室・面積・利用者・隣接・階指定・外部接続などを表形式で整理するのが有効である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0002

6-1 設計条件・敷地・法規 > 要求室・面積・設計条件整理 | 難易度：基礎

要求室合計が2,100㎡、共用部・設備部・壁柱等を含む効率を70%程度と仮定する場合、床面積合計の初期目安として最も近いものはどれか。

ア．要求室合計2,100㎡へ効率70%を乗じた場合：約1,470㎡

イ．要求室合計を効率0.70で除して総床面積を見積もる場合：約3,000㎡

ウ．共用部・設備部・壁柱等を見込まず要求室合計だけとする場合：約2,100㎡

エ．効率を50%相当として総床面積を見積もる場合：約4,200㎡

答え・解説

正答：イ

ア：要求室合計より小さく、共用部等を収容できない。

イ： $2,100 \div 0.70 = 3,000$ ㎡であり、初期ボリューム把握として妥当である。

ウ：共用部・設備部・壁柱等の面積を全く見込んでいない。

エ：効率50%に相当し、与えた70%条件と一致しない。

総合解説：製図試験では厳密な面積効率よりも、初期段階で全体規模を見誤らないことが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0003

6-1 設計条件・敷地・法規 > 要求室・面積・設計条件整理 | 難易度：基礎

要求室に「1階に設ける」と明記された室がある場合の計画として、最も適切なものはどれか。

ア．使いやすければ2階へ移してよい。

イ．面積が不足した場合は室そのものを削除してよい。

ウ．その条件を必須条件として扱い、他の室配置より優先して1階に確保する。

エ．階指定は参考情報なので無視してよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：明示された階指定条件に反する。

イ：要求室欠落は重大な不適合となり得る。

ウ：階指定は設計条件であり、重大な不適合を避けるため最優先で守る必要がある。

エ：明示条件は必須条件として扱う。

総合解説：設計条件整理では、階指定・面積指定・外部接続などの絶対条件をマーキングしてからエスキスする。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0004

6-1 設計条件・敷地・法規 > 要求室・面積・設計条件整理 | 難易度：標準

設計製図の試験で主要な要求室を一室描き忘れた場合の評価リスクとして、最も適切なものはどれか。

ア．他の室が良ければ必ず減点なしで合格する。

イ．面積表に室名を書けば平面図に描かなくてもよい。

ウ．要求室の欠落は作図表現だけの軽微なミスである。

エ．設計条件に対する重大な不適合と判断される可能性が高い。

答え・解説

正答：エ

ア：主要要求室の欠落は重大な問題となる。

イ：要求図書相互の整合が必要である。

ウ：設計条件不適合に該当し得る。

エ：JAEICは主要な要求室等の計画が不適合・不十分な場合、重大な不適合と判断し得ると明示している。

総合解説：製図試験は自由設計ではなく、与条件を満たす設計課題である。要求室欠落防止のチェックが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0005

6-1 設計条件・敷地・法規 > 要求室・面積・設計条件整理 | 難易度：標準

要求室が「約100㎡」と指定されている場合のエスキス上の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．他の条件と整合させつつ、指定面積から大きく逸脱しない現実的な範囲に納める。
- イ．30㎡でも『約100㎡』とみなす。
- ウ．200㎡以上にすれば必ず高評価になる。
- エ．面積指定は室名だけ満たせば無視してよい。

答え・解説

正答：ア

ア：『約』には一定の設計裁量があるが、要求意図を失うほど大きく外すべきではない。

イ：要求面積からの乖離が大きすぎる。

ウ：過大面積は全体計画を圧迫する。

エ：面積も設計条件の一部である。

総合解説：面積条件は単独ではなく、利用人数・家具配置・動線・全体面積とのバランスで判断する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0006

6-1 設計条件・敷地・法規 > 要求室・面積・設計条件整理 | 難易度：標準

ホテルのレストランについて、席数が多く配膳動線も必要とされる場合の計画として最も適切なものはどれか。

- ア．席数だけ収まれば、通路幅や厨房接続は考えなくてよい。
- イ．客席数だけでなく、テーブル間隔、配膳動線、厨房との接続、避難動線を含めて必要面積を検討する。
- ウ．厨房から最も遠い位置へ配膳経路を複雑にする。
- エ．避難経路上に固定家具を置いて通路を狭める。

答え・解説

正答：イ

ア：利用・安全性が成立しない。

イ：室面積は数値だけでなく、要求機能を成立させる家具・動線から逆算する必要がある。

ウ：運営効率が低下する。

エ：避難安全上不適切である。

総合解説：設計製図では面積を埋めるのではなく、要求機能と動線が成立する平面寸法を考える。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0007

6-1 設計条件・敷地・法規 > 要求室・面積・設計条件整理 | 難易度：標準

3階建てで各階の計画床面積が980㎡、1,020㎡、1,000㎡である。床面積合計として正しいものはどれか。

- ア．3階分のうち1階分を欠いた合計として扱う場合：2,000㎡
- イ．980+1,020+1,000の加算を2,980㎡とした場合：2,980㎡
- ウ．980+1,020+1,000をそのまま合計した場合：3,000㎡
- エ．各階面積を3,200㎡側へ過大に合計した場合：3,200㎡

答え・解説

正答：ウ

ア：1階分が欠落している。

イ：加算が誤っている。

ウ：980 + 1,020 + 1,000 = 3,000㎡である。

エ：与えられた各階面積の合計ではない。

総合解説：面積表は要求図書の一部であり、平面図のグリッド寸法から各階面積を素早く再計算できるようにする。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0008

6-1 設計条件・敷地・法規 > 要求室・面積・設計条件整理 | 難易度：標準

平面図で建物外形を変更した後、面積表を修正し忘れた場合の問題として最も適切なものはどれか。

- ア．平面図だけ正しければ面積表の数値は何でもよい。
- イ．面積表は採点対象ではない。
- ウ．面積表は試験終了後に修正できる。
- エ．要求図書相互の不整合となるため、面積表を平面図と一致させる必要がある。

答え・解説

正答：エ

ア：要求図書として不整合となる。

イ：要求図書に含まれる。

ウ：試験時間内に完成させる必要がある。

エ：設計製図では図面・面積表・計画の要点等の整合が重要である。

総合解説：エスキス変更後は、外形・面積・室配置・断面・要点記述への波及を必ず確認する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0009

6-1 設計条件・敷地・法規 > 要求室・面積・設計条件整理 | 難易度：応用

エスキス中に「主要要求室の面積確保」と「廊下をより広く取ること」が競合した。法定幅員は満たしている。最も適切な判断はどれか。

- ア．主要要求室の必須条件を確保した上で、残る余裕の範囲で廊下幅を調整する。
- イ．主要要求室を削除して廊下だけ広くする。
- ウ．法定幅員を下回ってでも要求室を広げる。
- エ．両方の条件を確認せずランダムに決める。

答え・解説

正答：ア

ア：製図試験では必須条件と裁量条件を区別し、絶対条件を優先する。

イ：要求室欠落は重大な不適合となり得る。

ウ：法令違反となる。

エ：条件の優先順位付けが必要である。

総合解説：判断順序は概ね、法令・重大な与条件→主要機能→安全・動線→快適性・表現の順で整理すると安定する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0010

6-1 設計条件・敷地・法規 > 要求室・面積・設計条件整理 | 難易度：応用

令和8年一級建築士「設計製図の試験」の課題で公表されている要求図書に含まれるものとして正しいものはどれか。

- ア．立面図だけ
- イ．1階平面図・配置図、各階平面図、断面図、面積表、計画の要点等
- ウ．構造計算書だけ
- エ．模型写真だけ

答え・解説

正答：イ

ア：令和8年公表課題の要求図書としてそのようには示されていない。

イ：JAEICが令和8年課題「ホテル」の要求図書として公表している。

ウ：公表された要求図書とは異なる。

エ：要求図書には含まれていない。

総合解説：令和8年課題では平面図・配置図、各階平面図、断面図、面積表、計画の要点等が要求される。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0011 6-1 設計条件・敷地・法規 > 敷地・周辺環境・外部計画 | 難易度：基礎

敷地の南側が幅員の大きい前面道路、北側が静かな公園であるホテルを計画する場合、最も適切な初期検討はどれか。

ア．道路・公園の違いを無視して全周同じ扱いとする。

イ．公園側に機械室の排気口だけを集中させる。

ウ．車両・サービスの進入条件と、公園側の景観・客室環境を分けて評価し、外部動線と主要室配置を決める。

エ．車両出入口を歩行者主動線と完全に重ねる。

答え・解説

正答：ウ

ア：敷地特性を活かせない。

イ：良好な周辺環境を損ないやすい。

ウ：敷地条件は道路アクセスだけでなく、周辺環境の質を室配置へ活かすことが重要である。

エ：安全性が低下する。

総合解説：令和8年課題では敷地周辺環境への配慮が明示されており、外部条件を建物内外の計画へ反映する必要がある。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0012 6-1 設計条件・敷地・法規 > 敷地・周辺環境・外部計画 | 難易度：基礎

ホテルの主出入口前に車寄せを設ける場合の計画として、最も適切なものはどれか。

ア．玄関前で歩行者動線と車両動線を何度も交差させる。

イ．車寄せを避難出口の直前へ置いて避難者を遮る。

ウ．乗降スペースを設けず車道上で乗降させる。

エ．歩行者のアプローチと車両動線の交錯をできるだけ減らし、安全に乗降できる車寄せとする。

答え・解説

正答：エ

ア：事故リスクが高まる。

イ：避難安全を損なう。

ウ：安全な外部計画にならない。

エ：歩車分離は利用者の安全と明快なアクセス計画に有効である。

総合解説：外部計画では歩行者、一般車、サービス車、緊急車両の経路を分けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0013 6-1 設計条件・敷地・法規 > 敷地・周辺環境・外部計画 | 難易度：基礎

ホテルで食材・リネン・廃棄物の搬出入が多い場合の外部計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．宿泊客の主玄関とは別にサービスヤード・搬入口を設け、バックヤードへ短く接続する。
- イ．全ての搬入を宿泊客用ロビー中央から行う。
- ウ．廃棄物搬出経路をレストラン客席内に通す。
- エ．サービス車両の停車位置を計画しない。

答え・解説

正答：ア

ア：サービス動線を客動線から分離すると、衛生・運営・安全性が向上する。

イ：客動線と交錯し運営上不適切である。

ウ：衛生・快適性を損なう。

エ：搬出入効率と安全性が低下する。

総合解説：ホテル計画では表動線と裏動線を外部から内部まで連続して整理することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0014 6-1 設計条件・敷地・法規 > 敷地・周辺環境・外部計画 | 難易度：標準

令和8年課題で敷地内の既存建築物を現状保存する条件が示された場合の計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．新築計画のため既存建築物を無断で解体する。
- イ．既存建築物の位置・利用・周辺空気を尊重し、新築部分との動線・景観・工事影響を調整する。
- ウ．既存建築物の出入口を新築壁で塞ぐ。
- エ．既存建築物との関係を配置図に一切示さない。

答え・解説

正答：イ

ア：現状保存条件に反する。

イ：令和8年課題では既存建築物の現状保存への配慮が明示されている。

ウ：利用・避難に支障を生じ得る。

エ：敷地計画の重要条件を表現できない。

総合解説：保存条件は建物単体ではなく、外部空間・動線・工事施工性も含めて調整する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0015 6-1 設計条件・敷地・法規 > 敷地・周辺環境・外部計画 | 難易度：標準

客室の主要開口部の方位を検討する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．全方位の環境条件は同じなので評価しない。

イ．西日が強い面でも遮蔽を一切検討しない。

ウ．眺望、日射、採光、夏季負荷、周辺騒音等を方位ごとに評価して配置を決める。

エ．採光の要否は室用途と無関係である。

答え・解説

正答：ウ

ア：日射・眺望・騒音等が異なる。

イ：熱負荷・快適性へ不利となる。

ウ：方位は快適性とエネルギー負荷の双方へ影響する。

エ：室用途に応じて評価する。

総合解説：外部環境を読み取り、必要に応じて庇・ルーバー・開口率等も組み合わせる。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0016 6-1 設計条件・敷地・法規 > 敷地・周辺環境・外部計画 | 難易度：標準

ホテルのラウンジに隣接して屋外テラスを計画する場合、最も適切な考え方はどれか。

ア．内部から見えずアクセスできない位置に設ける。

イ．避難経路をテラス家具で塞ぐ。

ウ．方位や日射を無視して配置する。

エ．内部ラウンジからの視認性・出入りやすさ、日射・風、避難動線を考慮して一体的に配置する。

答え・解説

正答：エ

ア：連続利用の利点を活かさない。

イ：避難安全上不適切である。

ウ：快適性を損なう可能性がある。

エ：屋内外の連続性は利用価値を高めるが、安全・環境条件も満たす必要がある。

総合解説：外部空間は余白ではなく、内部機能と連続する設計要素として計画する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0017

6-1 設計条件・敷地・法規 > 敷地・周辺環境・外部計画 | 難易度：標準

車椅子使用者用駐車区画を設ける場合の計画として、最も適切なものはどれか。

ア．主要な出入口までできるだけ短く、安全で段差の少ない経路を確保する。

イ．敷地内で最も遠い場所へ配置する。

ウ．出入口まで階段だけで接続する。

エ．車両動線を何度も横断させる。

答え・解説

正答：ア

ア：移動等円滑化の観点から、駐車区画から出入口まで連続した利用しやすい経路が必要である。

イ：移動負担が大きくなる。

ウ：車椅子利用者が使えない。

エ：安全性が低下する。

総合解説：バリアフリー計画は建物内だけでなく、敷地入口・駐車場・玄関まで連続して考える。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0018

6-1 設計条件・敷地・法規 > 敷地・周辺環境・外部計画 | 難易度：標準

屋外避難階段の出口付近の外部計画として、最も適切なものはどれか。

ア．出口前に自転車置場を設け通路を狭める。

イ．避難者が安全に敷地内通路や道路方向へ移動できるよう、出口前を障害物のない空間として確保する。

ウ．サービス車両の常時駐車場所と重ねる。

エ．出口を行き止まりの狭い囲い込み空間へ向ける。

答え・解説

正答：イ

ア：避難を妨げる。

イ：避難経路は建物外へ出た後も安全な場所まで連続して確保する必要がある。

ウ：避難時の障害となる。

エ：安全な避難へつながらない。

総合解説：外部計画では避難出口・消防活動・車両・歩行者の各条件を重ねて確認する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0019

6-1 設計条件・敷地・法規 > 敷地・周辺環境・外部計画 | 難易度：応用

敷地内に1.2m程度の高低差がある場合の計画として、最も適切なものはどれか。

ア．高低差を無視し、全ての出入口に段差を残す。

イ．雨水が建物側へ集まる勾配だけを計画する。

ウ．建物レベル、外部スロープ、排水、擁壁等を総合的に検討し、無理のないバリアフリー動線をつくる。

エ．擁壁や法面の安全性を考慮しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：利用性・安全性が低下する。

イ：浸水リスクが高まる。

ウ：高低差は出入口、雨水排水、外構、安全性に影響する。

エ：外部安全上不適切である。

総合解説：敷地条件は配置図だけでなく断面計画にも反映する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0020

6-1 設計条件・敷地・法規 > 敷地・周辺環境・外部計画 | 難易度：応用

1階平面図・配置図において、外部計画の理解に特に有効な情報の組合せとして最も適切なものはどれか。

ア．室内家具だけ

イ．構造部材断面表だけ

ウ．設備機器仕様書だけ

エ．建物位置、道路、出入口、車両・歩行者動線、駐車・車寄せ、外構、既存建築物等

答え・解説

正答：エ

ア：敷地との関係が表現できない。

イ：配置図の主目的ではない。

ウ：外部配置関係を表現できない。

エ：配置図は建物と敷地・周辺条件の関係を示す要求図書である。

総合解説：配置図は建物単体の図ではなく、敷地全体のアクセス・外部空間・周辺環境との関係を示す。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0021

6-1 設計条件・敷地・法規 > 法規・避難・防火条件 | 難易度：基礎

令和8年一級建築士試験の設計製図で適用すべき法令の基準日として正しいものはどれか。

- ア．2026年1月1日現在施行されている法令
- イ．2026年7月24日現在施行の法令だけ
- ウ．2025年1月1日現在施行の法令
- エ．受験者が任意に選んだ年度の法令

答え・解説

正答：ア

ア：JAEICは令和8年試験について、2026年1月1日現在施行の法令を適用すると明示している。
イ：課題公表日ではなく試験の法令基準日が定められている。
ウ：令和8年試験の基準日ではない。
エ：統一された基準日がある。
総合解説：法規条件は最新情報ではなく、試験が指定する基準日時点で判断する。
対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0022

6-1 設計条件・敷地・法規 > 法規・避難・防火条件 | 難易度：基礎

宿泊階の客室から屋外までの避難計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．客室から廊下へ出られれば、その先の経路は考えない。
- イ．客室から廊下、直通階段、避難階の出口、屋外まで連続して安全に避難できる経路を確保する。
- ウ．避難階の出口を施錠して使用不能にする。
- エ．廊下の途中を倉庫として閉鎖する。

答え・解説

正答：イ

ア：屋外まで連続した避難が必要である。
イ：避難安全は一部分ではなく、居室から屋外までの連続性で評価する。
ウ：避難経路を阻害する。
エ：避難経路の連続性を失う。
総合解説：製図では階段位置だけでなく、各室から階段、階段から屋外までを一筆書きで確認するとよい。
対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0023

6-1 設計条件・敷地・法規 > 法規・避難・防火条件 | 難易度：基礎

大きな宿泊階で二つの直通階段を設ける場合、最も適切な配置の考え方はどれか。

ア．二つの階段を同じ小区内に並べる。

イ．全ての客室から一方の階段しか使えない計画とする。

ウ．火災時に同時に利用不能となりにくいよう、互いに適切に離して配置し、各室から到達しやすくする。

エ．階段前をサービス物品で常時塞ぐ。

答え・解説

正答：ウ

ア：同一火災で同時に使用不能となるリスクが高い。

イ：二方向避難の効果がない。

ウ：二方向避難の意義は異なる方向へ避難選択肢を確保することにある。

エ：避難利用を妨げる。

総合解説：階段の個数だけでなく、相互位置と各室からの経路を評価する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0024

6-1 設計条件・敷地・法規 > 法規・避難・防火条件 | 難易度：標準

防火区画に設ける防火戸を避難経路上に配置する場合の計画として、最も適切なものはどれか。

ア．防火戸が閉鎖すると避難経路が完全に消滅する計画とする。

イ．防火戸を常時固定開放し、閉鎖機能を失わせる。

ウ．防火区画は避難計画と無関係に配置する。

エ．防火区画性能と避難利用の双方を満たし、閉鎖時にも必要な避難機能を確保する。

答え・解説

正答：エ

ア：避難安全上不適切である。

イ：防火区画性能を損なう。

ウ：両者を調整する必要がある。

エ：防火戸は煙・火災の拡大防止と避難経路の成立を両立させる必要がある。

総合解説：防火区画と避難動線は別々に考えず、火災時の実際の人の流れを想定して整合させる。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0025

6-1 設計条件・敷地・法規 > 法規・避難・防火条件 | 難易度：標準

階段・吹抜け・エレベーターシャフトなどの縦穴部分を区画する主な目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．火災や煙が上下階へ急速に拡大することを抑えるため。
- イ．上下階の音だけを完全に遮断するため。
- ウ．採光を増やすため。
- エ．建物重量を増やすため。

答え・解説

正答：ア

ア：縦穴は煙突効果などにより火煙が上下方向へ拡大しやすいため、区画が重要である。
イ：主目的は火煙拡大防止である。
ウ：防火上の区画目的とは異なる。
エ：構造重量が目的ではない。
総合解説：階段・EV・設備シャフトは動線・設備計画と同時に防火区画条件を確認する。
対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0026

6-1 設計条件・敷地・法規 > 法規・避難・防火条件 | 難易度：標準

設備配管やダクトが防火区画を貫通する場合の計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．貫通部周囲を大きく開放したままにする。
- イ．貫通部に所定の防火措置を講じ、区画性能を損なわないようにする。
- ウ．設備配管なら防火区画を自由に貫通してよい。
- エ．可燃材で隙間を塞げば必ず適法となる。

答え・解説

正答：イ

ア：防火区画性能を失う。
イ：設備貫通部は火煙の通り道となるため、区画性能を復元する処理が必要である。
ウ：貫通処理が必要である。
エ：要求される防火性能を満たす工法が必要である。
総合解説：製図ではPS・DS・EPS配置と防火区画の関係を同時に確認する。
対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0027

6-1 設計条件・敷地・法規 > 法規・避難・防火条件 | 難易度：標準

ホテルの避難計画で特に注意すべき利用者特性として、最も適切なものはどれか。

ア．宿泊者は全員建物構成を熟知している前提とする。

イ．避難階段を見つけにくい位置へ隠すほどよい。

ウ．宿泊者は建物に不慣れな場合が多いため、避難経路を明快で理解しやすくする。

エ．長い行き止まり廊下を積極的につくる。

答え・解説

正答：ウ

ア：現実的ではない。

イ：避難の明快性が低下する。

ウ：ホテルでは初めて訪れる利用者が多く、複雑な避難動線は不利である。

エ：避難安全上不利になりやすい。

総合解説：用途特性に応じた避難の分かりやすさも設計品質の重要な要素である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0028

6-1 設計条件・敷地・法規 > 法規・避難・防火条件 | 難易度：標準

エスキス終盤で大規模なレストランを別階へ移し、建物外形も変更した場合の最も適切な対応はどれか。

ア．室名だけ書き換え、他条件は一切確認しない。

イ．面積表だけ修正し平面図はそのままにする。

ウ．法規チェックは最初の一回だけでよい。

エ．床面積、避難距離、防火区画、階段、設備、外部動線など関連する法規・条件を再確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：不整合・法規違反を見逃す。

イ：図面不整合となる。

ウ：変更後に再確認する必要がある。

エ：設計変更は複数条件へ波及するため、変更箇所だけでなく関連条件を再チェックする必要がある。

総合解説：製図では『変更したら波及チェック』をルール化すると重大ミスを減らせる。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0029

6-1 設計条件・敷地・法規 > 法規・避難・防火条件 | 難易度：応用

通常のエレベーターと避難計画の関係として、最も適切なものはどれか。

- ア．通常のエレベーターを一般の避難階段の代替として扱わず、必要な階段を別途確保する。
- イ．エレベーターが1台あれば階段は不要である。
- ウ．エレベーターだけを二方向避難として数える。
- エ．階段はサービスマン専用なので宿泊者は使わない。

答え・解説

正答：ア

ア：通常時の垂直動線と火災時の避難経路は役割が異なる。

イ：必要な直通階段等を確保する必要がある。

ウ：通常のエレベーターは避難階段ではない。

エ：避難時には利用者が使用できる必要がある。

総合解説：EVは日常のバリアフリー・利便性に重要だが、避難階段の法的役割と混同しない。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0030

6-1 設計条件・敷地・法規 > 法規・避難・防火条件 | 難易度：応用

避難・防火条件を満たしていても図面上で階段・防火区画・出口等が不明瞭な場合の問題として、最も適切なものはどれか。

- ア．頭の中で成立していれば図面に描かなくてよい。
- イ．採点者が計画内容を確認できるよう、必要な情報を明確に図示・記載する必要がある。
- ウ．図面記号や室名は全て省略した方がよい。
- エ．法規条件は計画の要点だけに書けば平面図と矛盾してもよい。

答え・解説

正答：イ

ア：答案として評価できない。

イ：設計製図試験では計画そのものに加え、要求図書による表現・伝達が必要である。

ウ：計画意図が伝わらない。

エ：図面相互の整合が必要である。

総合解説：答案は『計画したこと』を採点者が読み取れる形で明確に表現する必要がある。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0031 6-2 平面計画・動線 > ゾーニング・部門構成 | 難易度：基礎

ホテルの1階ゾーニングとして、最も適切なものはどれか。

ア．厨房への食材搬入をロビー中央経由とする。

イ．フロントを主要出入口から見えない最奥部へ置く。

ウ．ロビー・フロント等の客利用部門と、事務・厨房・荷捌き等の管理・サービス部門を関係付けつつ、動線が過度に交錯しないよう分ける。

エ．バックヤードを設けず全ての管理作業を客用廊下で行う。

答え・解説

正答：ウ

ア：客動線とサービス動線が交錯する。

イ：初来館者に分かりにくい。

ウ：ホテルでは表部門と裏部門の機能的連携と動線分離の両立が重要である。

エ：運営・衛生・セキュリティ上不利である。

総合解説：ゾーニングは室を並べる作業ではなく、部門間の関係性と動線分離を構造化する作業である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0032 6-2 平面計画・動線 > ゾーニング・部門構成 | 難易度：基礎

ホテルのエントランスホールとフロントの配置として、最も適切なものはどれか。

ア．フロントをサービスヤード側のみに面して配置する。

イ．主出入口から複雑な廊下を何度も曲がった先に置く。

ウ．フロント前を荷物搬出専用通路として常時塞ぐ。

エ．主出入口から認識しやすく、到着客を自然に受け止められる位置にフロントを配置する。

答え・解説

正答：エ

ア：客利用者に分かりにくい。

イ：案内性が低い。

ウ：受付機能を損なう。

エ：初めて来館する利用者が迷わず受付へ到達できることが重要である。

総合解説：ロビー周辺は玄関、フロント、EV、ラウンジ等の位置関係を明快にする。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0033

6-2 平面計画・動線 > ゾーニング・部門構成 | 難易度：基礎

ホテルの客室階に配置する室の組合せとして、最も適切なものはどれか。

ア．客室ゾーンとエレベーターホール・共用廊下を明快に構成し、騒音の大きい設備室等を客室へ直接隣接させない。

イ．機械室の振動源を全客室の枕元側に連続配置する。

ウ．客室廊下を厨房搬送の主要経路と兼用する。

エ．客室へのアクセスを複雑な行き止まりだけで構成する。

答え・解説

正答：ア

ア：客室では静穏性・プライバシー・分かりやすいアクセスが重要である。

イ：騒音・振動環境が悪化する。

ウ：サービス動線と客動線が交錯する。

エ：案内性・避難性が低下する。

総合解説：客室階は宿泊者の静穏性と管理効率を両立するゾーニングが必要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0034

6-2 平面計画・動線 > ゾーニング・部門構成 | 難易度：基礎

ホテル内レストランと厨房の関係として、最も適切なものはどれか。

ア．厨房を別階の最遠部へ置き、専用搬送手段も設けない。

イ．配膳・下膳動線が短く、客動線とサービス動線が交錯しにくいよう隣接または近接させる。

ウ．配膳経路をフロントカウンター内に通す。

エ．下膳経路を客の主動線と完全に重ねる。

答え・解説

正答：イ

ア：運営効率が悪い。

イ：厨房とレストランは機能的に強く結び付くため、平面的な近接が合理的である。

ウ：機能が混在する。

エ：衛生・快適性上不利である。

総合解説：強い隣接関係をもつ室は早い段階でセットとして配置する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0035

6-2 平面計画・動線 > ゾーニング・部門構成 | 難易度：標準

ホテルの宴会室が宿泊者以外の外来利用も多い場合の計画として、最も適切なものはどれか。

ア．宴会利用者を必ず客室廊下経由で案内する。

イ．宴会室へのアクセスをサービス搬入口だけとする。

ウ．宿泊部門を通過せず宴会部門へアクセスできる動線を確保し、必要に応じて独立性を高める。

エ．宴会部門と客室部門を区別せず完全に混在させる。

答え・解説

正答：ウ

ア：宿泊者のプライバシーを損なう。

イ：一般利用者のアクセスとして不適切である。

ウ：外来利用の多い機能は宿泊者のプライバシーや客室階の静穏性を損なわないよう分離する。

エ：運営・セキュリティ上不利である。

総合解説：用途の異なる利用者群がある場合、時間帯・人数・アクセス経路を想定してゾーニングする。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0036

6-2 平面計画・動線 > ゾーニング・部門構成 | 難易度：標準

宿泊者用の大浴場等を上階に設ける場合の計画として、最も適切なものはどれか。

ア．客室からのアクセスを一切考慮しない。

イ．浴槽下の設備・防水スペースを考慮しない。

ウ．外来者が自由に客室フロアを通過する動線だけとする。

エ．宿泊者が客室階からアクセスしやすく、設備配管・防水・荷重・プライバシーにも配慮する。

答え・解説

正答：エ

ア：利用性が低下する。

イ：断面・設備計画が成立しない。

ウ：セキュリティ上不利である。

エ：大浴場は利用動線だけでなく、給排水・防水・構造荷重等の設備・構造条件が大きい。

総合解説：製図課題では室の機能だけでなく、設備負荷・構造・プライバシーまで同時に考える。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0037

6-2 平面計画・動線 > ゾーニング・部門構成 | 難易度：標準

ホテルのサービスゾーンとして、最も適切な構成はどれか。

- ア．荷捌き、倉庫、厨房、リネン、サービスEV等を連携させ、客用ゾーンへ出ずに主要サービス業務が完結できるようにする。
- イ．荷捌きから厨房まで客室廊下を通る。
- ウ．サービスEVを客用ロビー中央にのみ開く。
- エ．廃棄物保管場所を客用ラウンジに併設する。

答え・解説

正答：ア

ア：バックヤードの連続性は運営効率・衛生・セキュリティに重要である。

イ：動線分離ができていない。

ウ：裏動線として機能しにくい。

エ：衛生・快適性上不適切である。

総合解説：サービス動線は外部搬入口からバックヤード、各階まで連続して確認する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0038

6-2 平面計画・動線 > ゾーニング・部門構成 | 難易度：標準

ホテル内に地域交流ラウンジなど外来者も利用する室を設ける場合の計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．外来者が全客室階を通過しないと利用できない位置に置く。
- イ．主出入口やロビーから分かりやすくアクセスでき、宿泊者専用ゾーンへの不用意な侵入を防ぐ。
- ウ．屋外からアクセスできず案内表示もない位置に置く。
- エ．客室専用EVの奥だけに入口を設ける。

答え・解説

正答：イ

ア：宿泊者のプライバシーを損なう。

イ：外来利用部門はアクセス性と宿泊部門のセキュリティを両立する必要がある。

ウ：利用性が低い。

エ：ゾーニング上不適切である。

総合解説：利用者属性ごとにアクセス可能範囲を設定すると、ゾーニングが明快になる。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0039

6-2 平面計画・動線 > ゾーニング・部門構成 | 難易度：標準

ロビー・レストラン等の共用部に設ける便所の配置として、最も適切なものはどれか。

ア．共用部から最も遠い客室専用廊下の奥にだけ設ける。

イ．レストラン客席中央に便所扉を直接開く。

ウ．主要共用空間から利用しやすく、案内しやすい位置としつつ、出入口が客席やロビー正面へ直接露出しすぎないよう配慮する。

エ．共用トイレを一切設けず客室トイレだけをかわせる。

答え・解説

正答：ウ

ア：利用しにくい。

イ：快適性上不利である。

ウ：利便性と視覚・臭気等への配慮を両立する。

エ：共用部の利用実態に合わない。

総合解説：共用便所は動線上見つけやすく、視線・臭気・バリアフリーも考慮する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0040

6-2 平面計画・動線 > ゾーニング・部門構成 | 難易度：標準

機械室や電気室のゾーニングとして、最も適切なものはどれか。

ア．客室の静穏性を考えず全て客室壁へ直接隣接させる。

イ．機器更新経路を一切確保しない。

ウ．ダクトや配管の経路と無関係に最遠部へ配置する。

エ．機器搬入・保守、騒音・振動、配管・ダクト経路、外部接続を考慮してサービスゾーンへ配置する。

答え・解説

正答：エ

ア：騒音・振動問題が生じる。

イ：維持管理性が低い。

ウ：設備効率が悪化する。

エ：設備室は空きスペースへ後付けするのではなく、設備経路と保守性から早期に位置決めする。

総合解説：設備ゾーニングは平面・断面・サービス動線を横断して考える。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0041 6-2 平面計画・動線 > ゾーニング・部門構成 | 難易度：応用

静かな客室ゾーンと賑わいのある宴会ゾーンが同一階にある場合の計画として、最も適切なものはどれか。

ア．廊下、ホワイエ、倉庫、設備スペース等を緩衝帯として介在させ、騒音・人流の影響を低減する。

イ．客室のベッドヘッド側へ宴会室スピーカー面を直接隣接させる。

ウ．両ゾーンの出入口を一つにして常時混雑させる。

エ．用途特性を考慮せずランダムに室を並べる。

答え・解説

正答：ア

ア：異なる性格のゾーンが接する場合は直接隣接を避ける工夫が有効である。

イ：騒音上不利である。

ウ：動線分離ができない。

エ：ゾーニングの意味を失う。

総合解説：隣接関係は『近づけるべき室』だけでなく『離すべき室』も整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0042 6-2 平面計画・動線 > ゾーニング・部門構成 | 難易度：応用

令和8年一級建築士設計製図課題で、建築物の計画に当たって明示されている事項として正しいものはどれか。

ア．全ての要求室を同一空間にまとめる。

イ．各要求室を適切にゾーニングし、明快な動線計画とする。

ウ．動線を意図的に複雑にする。

エ．構造や設備は考慮しない。

答え・解説

正答：イ

ア：公式留意事項ではない。

イ：JAEICが令和8年課題「ホテル」の留意事項として明示している。

ウ：明快な動線計画が求められている。

エ：構造・設備も留意事項に明記されている。

総合解説：令和8年課題ではゾーニング・動線が公式に評価上重要な計画事項として示されている。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0043

6-2 平面計画・動線 > 動線・コア・アクセス計画 | 難易度：基礎

ホテルのエレベーター計画として、最も適切なものはどれか。

ア．全ての廃棄物搬送を客用EVだけで行う。

イ．サービスEVを客室からしか利用できない位置にする。

ウ．客用EVとサービスEVの役割を分け、宿泊者動線とリネン・食材・廃棄物等の搬送動線できるだけ分離する。

エ．EVを設ければ階段は不要とする。

答え・解説

正答：ウ

ア：衛生・快適性上不利である。

イ：バックヤードとの接続が悪い。

ウ：ホテル運営では表動線と裏動線の垂直方向の分離も重要である。

エ：避難階段等は別途必要である。

総合解説：EVは利用者・荷物の種類ごとに役割を整理し、各階のゾーニングと整合させる。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0044

6-2 平面計画・動線 > 動線・コア・アクセス計画 | 難易度：基礎

ホテルのコア位置を決める際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．空いた場所ならどこでもよく、階ごとに位置を大きくずらす。

イ．客室から最も遠く、分かりにくい位置を優先する。

ウ．構造グリッドや設備シャフトとの関係を考えない。

エ．客室・共用部からのアクセス、避難階段、設備シャフト、構造計画、平面効率を総合して決める。

答え・解説

正答：エ

ア：上下階整合と設備経路が悪化する。

イ：利便性が低い。

ウ：平面・断面計画が不整合になる。

エ：コアはEV・階段・設備を集約するため、動線・避難・構造・設備を同時に左右する。

総合解説：コアはエスキス初期に固定し、上下階で整合させると計画が安定する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0045

6-2 平面計画・動線 > 動線・コア・アクセス計画 | 難易度：基礎

主玄関から客用EVホールまでの動線として、最も適切なものはどれか。
ア．ロビー・フロントから視認・案内しやすく、過度に曲折しない明快な経路とする。
イ．フロントを通過した後に何度も折れ曲がる迷路状とする。
ウ．サービスヤードを横断しないとEVへ行けない。
エ．EVホールの位置をロビーから全く認識できないよう隠す。

答え・解説

正答：ア

ア：ホテル利用者には建物に不慣れな人が多いため、分かりやすい垂直動線が重要である。
イ：案内性が低下する。
ウ：客動線として不適切である。
エ：利便性が低い。
総合解説：アクセス計画は距離だけでなく、視認性・方向性・案内性を評価する。
対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0046

6-2 平面計画・動線 > 動線・コア・アクセス計画 | 難易度：基礎

客室階の廊下計画として、最も適切なものはどれか。
ア．全客室を長大な行き止まり廊下の先だけに配置する。
イ．避難経路や法令条件を踏まえ、長い行き止まりを避けて複数方向へ避難しやすい構成とする。
ウ．階段位置と廊下形状を無関係に決める。
エ．避難階段前を家具置場とする。

答え・解説

正答：イ

ア：避難安全上不利になりやすい。
イ：客室階は多くの居室が廊下へ接続するため、避難階段との関係が重要である。
ウ：歩行距離・二方向避難へ影響する。
エ：避難を妨げる。
総合解説：廊下は室へのアクセスと避難経路を兼ねるため、平面計画上の骨格として扱う。
対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0047

6-2 平面計画・動線 > 動線・コア・アクセス計画 | 難易度：標準

チェックアウト時間帯にリネン回収も行うホテルで、客用廊下の混雑を減らす計画として最も適切なものはどれか。

ア．リネンカートを客用EVホールへ常時置く。

イ．客用廊下だけを全サービス作業に使う。

ウ．サービス用廊下・サービスEVを確保し、客室清掃・リネン搬送が客用EVホールへ集中しないようにする。

エ．清掃員の動線を一切計画しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：客動線を阻害する。

イ：混雑・快適性低下を招く。

ウ：利用時間帯が重なる動線は物理的に分離するほど運営が安定する。

エ：運営が成立しにくい。

総合解説：動線計画は人だけでなく、荷物・リネン・食材・廃棄物の流れも含めて検討する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0048

6-2 平面計画・動線 > 動線・コア・アクセス計画 | 難易度：標準

食材搬入口から厨房までの動線として、最も適切なものはどれか。

ア．ロビー、ラウンジ、客室廊下を順に通る。

イ．食材保管庫を厨房から最も遠い場所に置く。

ウ．搬入口から厨房まで段差だけで接続する。

エ．検品・保管等の必要機能を経由しつつ、客利用部門を通らない短いサービス経路とする。

答え・解説

正答：エ

ア：客動線との交錯が大きい。

イ：作業効率が低い。

ウ：台車搬送に不利である。

エ：食材搬入は衛生と運営効率のためバックヤード内で完結させるのが望ましい。

総合解説：サービス動線は台車利用も想定し、幅・段差・EV・扉の納まりまで考える。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0049

6-2 平面計画・動線 > 動線・コア・アクセス計画 | 難易度：標準

大規模ホテルでロビー、レストラン、宴会場、EVホールの動線が一点に集中する場合の改善として、最も適切なものはどれか。

- ア．主動線の幅員・方向を整理し、必要に応じてホワイエや待機空間を設けて流れを分散する。
- イ．交差点をさらに狭くして人を一列にする。
- ウ．EV扉前に固定家具を配置する。
- エ．宴会場の待機客を避難階段内に滞留させる。

答え・解説

正答：ア

ア：利用ピーク時には複数部門の利用者が集中するため、動線容量と待機空間が必要である。
イ：混雑・避難上不利である。
ウ：乗降を妨げる。
エ：避難機能を損なう。
総合解説：動線計画では平常時のピークと非常時の避難の双方を想定する。
対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0050

6-2 平面計画・動線 > 動線・コア・アクセス計画 | 難易度：標準

客室清掃のためのサービス動線として、最も適切なものはどれか。

- ア．清掃備品を全てロビーに保管する。
- イ．各客室階に清掃用リネン・備品の拠点を設け、サービスEVと効率よく連携させる。
- ウ．サービスEVから客室階へアクセスできないようにする。
- エ．汚れたリネンと飲食物搬送を同一カートで無分別に行う。

答え・解説

正答：イ

ア：客利用空間を圧迫する。
イ：清掃スタッフが毎回遠距離搬送する計画より、階ごとの作業拠点が効率的である。
ウ：清掃動線が成立しない。
エ：衛生上不適切である。
総合解説：ホテルは運営動線が多いため、エスキス段階で裏動線の連続性を確認する。
対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0051 6-2 平面計画・動線 > 動線・コア・アクセス計画 | 難易度：標準

利用頻度の高い共用部を上下階に配置する場合の階段計画として、最も適切なものはどれか。

ア．全ての上下移動をサービス階段だけに限定する。

イ．日常利用階段を行き止まりの裏動線に隠す。

ウ．法定避難階段とは別に、必要に応じて分かりやすい日常利用階段を配置し、利用者の移動を円滑にする。

エ．階段を設けずEVだけで全てを処理する。

答え・解説

正答：ウ

ア：利用者の利便性が低い。

イ：案内性が悪い。

ウ：日常動線と避難動線は重なる場合もあるが、利用目的に応じた明快性が重要である。

エ：避難計画が成立しない。

総合解説：階段は法規上の必要性だけでなく、空間構成・利用者体験の要素として考える。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0052 6-2 平面計画・動線 > 動線・コア・アクセス計画 | 難易度：標準

各階平面図でEVシャフト位置が階ごとに大きくずれている場合の問題として最も適切なものはどれか。

ア．EVは階ごとに水平方向へ自由に移動できるので問題ない。

イ．面積が合っていれば位置は不問である。

ウ．断面図で描かなければ不整合は存在しない。

エ．垂直シャフトとして成立せず、重大な図面不整合となるため上下階で位置を整合させる必要がある。

答え・解説

正答：エ

ア：物理的に成立しない。

イ：図面相互の重大な不整合となる。

ウ：平面図自体で成立していない。

エ：EV・階段・設備シャフトは原則として上下階で連続する必要がある。

総合解説：製図チェックでは上下階を重ねる意識で柱・階段・EV・PS・吹抜け等を確認する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0053

6-2 平面計画・動線 > 動線・コア・アクセス計画 | 難易度：応用

ホテルのロビーからレストラン入口への案内性を高める方法として、最も適切なものはどれか。
ア．主要動線から入口を視認しやすくし、必要に応じてサイン計画と空間の方向性を合わせる。
イ．入口を壁の裏へ隠し、案内表示も設けない。
ウ．途中に複数の行き止まりを設ける。
エ．サービス扉と客入口を同じ表示にする。

答え・解説

正答：ア

ア：案内性はサインだけでなく、平面形状・視線・明るさ・入口位置によってつくられる。
イ：利用者が迷いやすい。
ウ：分かりにくい。
エ：誤進入を招く。
総合解説：明快な動線計画は令和8年課題の公式留意事項でもある。
対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0054

6-2 平面計画・動線 > 動線・コア・アクセス計画 | 難易度：応用

多数の宿泊者が利用する客用EVホールの計画として、最も適切なものはどれか。
ア．EV庫の直前を主要避難通路の最狭部にする。
イ．庫前に十分な待機・乗降空間を確保し、廊下通行者と大きく干渉しないようにする。
ウ．EV前に固定家具を密集させる。
エ．待機空間を全く設けない。

答え・解説

正答：イ

ア：混雑時に避難を阻害する。
イ：EVホールには滞留が生じるため、通過動線と待機動線を重ねすぎないことが重要である。
ウ：乗降を妨げる。
エ：通路混雑を招く。
総合解説：EVホールは面積効率だけでなく、ピーク時の滞留・バリアフリー・避難との関係で決める。
対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0055

6-2 平面計画・動線 > バリアフリー・避難・セキュリティ | 難易度：基礎

ホテルの主要出入口からフロント、客用EVまでの経路として、最も適切なものはどれか。

ア．途中に段差だけを設け、代替経路を設けない。

イ．スロープを荷物置場として塞ぐ。

ウ．原則として段差を避け、必要な場合は適切な勾配の傾斜路等で連続した移動経路を確保する。

エ．主要出入口からEVまでサービスヤードを通す。

答え・解説

正答：ウ

ア：車椅子利用者が移動できない。

イ：移動経路が機能しない。

ウ：利用者が自力で主要機能へ到達できる連続した経路が重要である。

エ：安全・快適性上不適切である。

総合解説：バリアフリーは部分的な設備ではなく、敷地から建物内まで連続する経路として計画する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0056

6-2 平面計画・動線 > バリアフリー・避難・セキュリティ | 難易度：基礎

車椅子使用者用客室の配置として、最も適切なものはどれか。

ア．階段しか使えない位置に配置する。

イ．最も遠い行き止まりの先へ必ず配置する。

ウ．客用EVと異なる非公開サービス経路だけでアクセスさせる。

エ．客用EVから分かりやすく到達でき、過度に長い経路や段差を避ける。

答え・解説

正答：エ

ア：利用できない。

イ：移動負担が大きい。

ウ：利用者動線として不適切である。

エ：移動等円滑化の観点から、客室までのアクセスのしやすさが重要である。

総合解説：車椅子使用者用客室は客室内部の寸法だけでなく、到達経路も含めて成立させる。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0057

6-2 平面計画・動線 > バリアフリー・避難・セキュリティ | 難易度：基礎

共用部の車椅子使用者用便房等の配置として、最も適切なものはどれか。

- ア．主要共用部からアクセスしやすく、扉前や内部に必要な車椅子操作空間を確保する。
- イ．扉前を家具で塞ぐ。
- ウ．室内に便器を置くが車椅子が回転できない寸法とする。
- エ．共用部から階段を上らないと使えない場所にだけ設ける。

答え・解説

正答：ア

ア：単に室名を置くだけでなく、実際に利用できる寸法・経路が必要である。

イ：利用できない。

ウ：機能が成立しない。

エ：バリアフリー経路が成立しない。

総合解説：バリアフリー設備は『存在すること』ではなく『利用可能であること』を確認する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0058

6-2 平面計画・動線 > バリアフリー・避難・セキュリティ | 難易度：標準

客室階の避難階段扉のセキュリティ計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．避難時にも客室側から開かない扉とする。
- イ．通常時の不正侵入を防ぎつつ、避難方向には必要時に安全に通過できるようにする。
- ウ．避難階段を完全に物置化する。
- エ．セキュリティのため避難出口を常時南京錠で閉鎖する。

答え・解説

正答：イ

ア：避難を妨げる。

イ：セキュリティは避難を妨げない範囲で計画する必要がある。

ウ：避難機能を失う。

エ：非常時に使用できない。

総合解説：ホテルでは不特定多数の利用と宿泊者の安全確保の両方が必要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0059

6-2 平面計画・動線 > バリアフリー・避難・セキュリティ | 難易度：標準

外来者も利用するレストランがあるホテルで、宿泊者専用客室階のセキュリティを高める方法として最も適切なものはどれか。

ア．外来者が自由に全客室階へ上げられる計画とする。

イ．客室廊下をレストランへの近道として利用する。

ウ．客用EV等でカード認証などを用い、外来者が不用意に客室階へ進入しにくい動線・管理方式とする。

エ．セキュリティのため主玄関を常時閉鎖する。

答え・解説

正答：ウ

ア：プライバシー・防犯上不利である。

イ：宿泊者専用ゾーンが保てない。

ウ：公共利用部門と宿泊者専用部門の境界を明確にすることが重要である。

エ：ホテル機能が成立しない。

総合解説：セキュリティゾーンは平面・EV制御・管理視線を組み合わせで設定する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0060

6-2 平面計画・動線 > バリアフリー・避難・セキュリティ | 難易度：標準

ホテルフロントの位置を決める際、セキュリティ上有効な考え方として最も適切なものはどれか。

ア．主出入口が全く見えない閉鎖室に置く。

イ．バックヤードしか見えない位置に限定する。

ウ．フロント前をサービス搬入の主経路とする。

エ．主出入口や主要客動線を把握しやすい位置に配置し、必要な範囲を管理できるようにする。

答え・解説

正答：エ

ア：来館者管理がしにくい。

イ：客動線の管理性が低い。

ウ：受付・管理機能を妨げる。

エ：フロントは受付機能に加え、共用部の管理拠点としての役割を持つ。

総合解説：視線による自然な管理はサイン・アクセス制御と組み合わせると有効である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0061

6-2 平面計画・動線 > バリアフリー・避難・セキュリティ | 難易度：標準

避難階の出口から屋外安全な場所へ至る経路として、最も適切なものはどれか。

- ア．避難を妨げる段差・障害物を避け、必要な幅員を確保して安全に移動できるようにする。
- イ．出口直後に大きな段差だけを設ける。
- ウ．経路を植栽・設備機器で塞ぐ。
- エ．屋外に出た地点を行き止まりの閉鎖空間とする。

答え・解説

正答：ア

ア：避難経路は非常時に多数の人が通過するため、連続性と安全性が必要である。

イ：避難時の転倒・車椅子利用者の障害となる。

ウ：避難を妨げる。

エ：安全な場所へ到達できない。

総合解説：避難とバリアフリーは異なる制度条件もあるが、動線上の安全性という点で共通して確認できる。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0062

6-2 平面計画・動線 > バリアフリー・避難・セキュリティ | 難易度：標準

客室階EVホール前にセキュリティゲートを設ける場合の計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．停電時に必ず閉鎖固定され避難できない方式とする。
- イ．通常時の入退室管理を行いつつ、避難時には避難経路を妨げない開放・解除方式とする。
- ウ．避難階段への唯一の経路を常時ロックする。
- エ．ゲートを避難経路幅より狭い一人用だけにする。

答え・解説

正答：イ

ア：非常時に危険である。

イ：アクセス制御設備は火災時の避難を阻害しないように計画する。

ウ：避難を妨げる。

エ：多数避難に不利である。

総合解説：セキュリティ設備は通常運用だけでなく火災・停電・災害時の動作を確認する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0063

6-2 平面計画・動線 > バリアフリー・避難・セキュリティ | 難易度：標準

車椅子利用者が通る主要経路上に防火戸を設ける場合の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．防火戸なので有効幅員は考えなくてよい。

イ．車椅子利用者が開けられない重い扉だけを無条件で採用する。

ウ．防火性能を確保しつつ、有効幅員・開閉操作性・段差等を考慮して通行しやすい仕様とする。

エ．バリアフリーを優先して防火性能をなくす。

答え・解説

正答：ウ

ア：通行可能性を確保する必要がある。

イ：利用性を損なう。

ウ：防火とバリアフリーの両条件を同時に成立させる必要がある。

エ：法規条件を満たさない。

総合解説：製図では個別条件を別々に満たすだけでなく、同じ場所で競合する条件を統合する力が重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0064

6-2 平面計画・動線 > バリアフリー・避難・セキュリティ | 難易度：応用

ホテルの夜間運用を考慮したゾーニングとして、最も適切なものはどれか。

ア．夜間閉鎖したい宴会場を通らないと客室へ行けない。

イ．客室への唯一の経路を営業時間外に閉鎖する。

ウ．フロントと主要入口を完全に切り離す。

エ．24時間利用する玄関・フロント・客用EVと、夜間閉鎖できる外来共用部を区分しやすい構成とする。

答え・解説

正答：エ

ア：運用上不合理である。

イ：宿泊機能が成立しない。

ウ：夜間管理性が低い。

エ：時間帯によって利用範囲が変わる施設では、管理区画を設定しやすい平面が有効である。

総合解説：時間帯別運用を考えると、日中・夜間のセキュリティゾーンを整理しやすい。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0065

6-2 平面計画・動線 > バリアフリー・避難・セキュリティ | 難易度：応用

日常時には便利な吹抜け階段があるホテルで、避難計画を検討する場合の最も適切な考え方はどれか。

- ア．日常階段の利便性とは別に、法令上必要な直通階段・防火区画等が成立しているか確認する。
- イ．吹抜け階段があれば他の避難階段は全て不要と判断する。
- ウ．日常階段の位置だけで二方向避難を成立したとみなす。
- エ．避難経路は平常時の動線と完全に同じでなければならない。

答え・解説

正答：ア

ア：見栄えの良い日常動線がそのまま法定避難経路になるとは限らない。

イ：法規要件の確認が必要である。

ウ：階段の種別・区画等を確認する必要がある。

エ：役割が異なる場合がある。

総合解説：製図では『日常の使いやすさ』と『非常時の安全』を両立させる。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0066

6-3 構造・断面・設備計画 > 構造グリッド・スパン・架構 | 難易度：基礎

ホテルの客室を規則的に配置する場合の構造グリッド設定として、最も適切なものはどれか。

- ア．客室間仕切りと無関係に柱をランダム配置する。
- イ．客室モジュール、廊下、柱断面、設備シャフトを考慮し、反復しやすい合理的なスパンを設定する。
- ウ．各階で柱位置を大きくずらし、下階との整合を考えない。
- エ．スパンは要求室寸法と無関係に決める。

答え・解説

正答：イ

ア：客室内に柱が突出しやすく平面効率が低下する。

イ：反復性の高いホテル客室では、客室幅と構造スパンを整合させると平面・構造・施工が合理化しやすい。

ウ：荷重伝達が複雑になる。

エ：空間成立性と構造合理性を同時に考える必要がある。

総合解説：構造グリッドは平面計画の骨格であり、客室モジュール・駐車・大空間・設備と整合させる。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0067

6-3 構造・断面・設備計画 > 構造グリッド・スパン・架構 | 難易度：基礎

1階に柱の少ない大宴会場、その上階に規則的な客室を計画する場合の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．上階柱を宴会場の中央へ無条件に落とす。

イ．柱位置がずれても荷重は自動的に地盤へ伝わるので構造計画不要とする。

ウ．上階の柱割りと大宴会場の無柱空間が衝突する場合、梁せいの大きい架構やトランスファー構造等を含めて合理的に検討する。

エ．断面図に描かなければ構造不整合は問題にならない。

答え・解説

正答：ウ

ア：要求空間を損なう。

イ：荷重伝達が成立しない。

ウ：大空間と上階の細かなグリッドが異なる場合は、荷重伝達経路を明確にする必要がある。

エ：計画そのものが成立していない。

総合解説：製図課題では平面だけでなく、上下階の柱・梁・大空間の関係を断面・構造計画で説明できる必要がある。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0068

6-3 構造・断面・設備計画 > 構造グリッド・スパン・架構 | 難易度：基礎

同じ構造種別・荷重条件で梁スパンを大きくする場合の一般的な傾向として、最も適切なものはどれか。

ア．スパンが大きいほど梁せいは必ず小さくできる。

イ．スパンは階高に一切影響しない。

ウ．スパンを大きくすれば柱・梁の検討が不要になる。

エ．必要な梁せい・剛性・耐力が大きくなりやすく、階高や設備経路への影響も増える。

答え・解説

正答：エ

ア：一般に逆である。

イ：梁せい増加が天井内設備と競合する。

ウ：構造条件はむしろ厳しくなる。

エ：スパン増大は曲げ・たわみを増やすため、部材断面や架構形式の見直しが必要となる。

総合解説：スパン計画は空間性・構造安全・経済性・設備納まりを総合して決める。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0069

6-3 構造・断面・設備計画 > 構造グリッド・スパン・架構 | 難易度：基礎

上階の柱が下階の梁中央へ落ちる計画を採用する場合の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．梁へ大きな集中荷重が生じるため、必要な構造検討を行い、安易な柱抜けを避ける。
- イ．柱位置がずれても構造的影響はない。
- ウ．下階梁断面は通常梁より必ず小さくできる。
- エ．上階柱は空中で支持できるので梁は不要である。

答え・解説

正答：ア

ア：柱抜けはトランスファー梁等へ大きな応力・変形を生じる。

イ：荷重伝達経路が変わる。

ウ：一般に大きな負担を受ける。

エ：構造的に成立しない。

総合解説：上下階の柱位置は原則整合させ、やむを得ない柱抜けは明確な構造システムで処理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0070

6-3 構造・断面・設備計画 > 構造グリッド・スパン・架構 | 難易度：標準

耐震壁やブレース等の水平抵抗要素を平面配置する場合の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．全ての耐震要素を建物の一隅だけに集中させる。
- イ．重心・剛心の偏りやねじれを抑えるよう、平面的にバランスよく配置する。
- ウ．耐震要素の配置は平面形状と無関係である。
- エ．建物中央に一切構造要素を置けない場合でも配置検討は不要である。

答え・解説

正答：イ

ア：偏心が大きくなりやすい。

イ：水平抵抗要素が一方へ偏ると地震時のねじれ応答が大きくなりやすい。

ウ：ねじれ・剛性分布へ影響する。

エ：架構全体の安定性を考える必要がある。

総合解説：製図レベルでも、極端な偏心や不連続を避けた素直な架構を計画することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0071

6-3 構造・断面・設備計画 > 構造グリッド・スパン・架構 | 難易度：標準

上階の耐震壁を下階で突然なくす計画について、最も適切な評価はどれか。

ア．耐震壁は階ごとに自由に消してよい。

イ．下階に壁がなくても地震力は自動的に消える。

ウ．剛性・耐力の急変や荷重伝達の複雑化を招くため、可能な限り上下階で連続させる。

エ．上下階の剛性差は耐震性能に影響しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：上下階の力の流れを考慮する必要がある。

イ：地震力は下部へ伝達される。

ウ：耐震要素の不連続は特定階への変形集中を招きやすい。

エ：層間変形分布に影響する。

総合解説：構造計画では柱・耐震壁・ブレースなどの鉛直方向の連続性を確認する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0072

6-3 構造・断面・設備計画 > 構造グリッド・スパン・架構 | 難易度：標準

形状が大きく異なる二つの建物部分をエキスパンションジョイントで分離する主な目的として、最も適切なものはどれか。

ア．二つの建物部分を完全に一体化して相対変位を0にするため。

イ．防水を必ず不要にするため。

ウ．柱を全てなくすため。

エ．温度変化や地震時の異なる変形を相互に拘束しすぎないように、構造的に分離する。

答え・解説

正答：エ

ア：分離する目的と逆である。

イ：EXP.J部はむしろ止水納まりが必要である。

ウ：構造分離とは無関係である。

エ：長大・不整形建物等では、異なる挙動を許容するため構造体を分割する場合がある。

総合解説：EXP.Jは構造だけでなく、防水・仕上げ・設備配管の相対変位対応も必要となる。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0073

6-3 構造・断面・設備計画 > 構造グリッド・スパン・架構 | 難易度：標準

大きな吹抜けを設ける場合の構造計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．床の水平力伝達経路が途切れないよう、周辺梁・床スラブ等で水平構面の連続性を確保する。
- イ．吹抜けがあれば床構面の検討は不要である。
- ウ．吹抜け周囲の梁を全てなくす。
- エ．床スラブは地震時の水平力伝達に関与しない。

答え・解説

正答：ア

ア：大開口は床の剛性・水平力伝達へ影響するため、周辺架構の計画が重要である。

イ：水平力伝達を確認する必要がある。

ウ：開口周辺の力伝達が成立しにくい。

エ：ダイヤフラムとして働く。

総合解説：吹抜け・大階段・アトリウムは意匠の魅力と同時に構造・防火・設備条件も確認する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0074

6-3 構造・断面・設備計画 > 構造グリッド・スパン・架構 | 難易度：標準

ホテルの構造種別を選定する考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．構造種別は外観の色だけで決める。
- イ．建物規模、スパン、階数、耐火・耐震、施工性、経済性、設備計画等を総合して選定する。
- ウ．どの建物でも必ず同じ構造種別が最適である。
- エ．設備計画やスパンと無関係に選定する。

答え・解説

正答：イ

ア：構造条件を考慮していない。

イ：令和8年課題では構造耐力上の安全性と経済性への配慮が明示されている。

ウ：用途・規模・条件で適否が異なる。

エ：部材寸法・階高・施工性に影響する。

総合解説：設計製図では複雑な構造を狙うより、要求空間に合う明快で説明しやすい構造計画が重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0075

6-3 構造・断面・設備計画 > 構造グリッド・スパン・架構 | 難易度：標準

平面図で柱断面を800mm角、断面図で同じ柱を400mm角として描いた場合の問題として、最も適切なものはどれか。

ア．図面ごとに柱寸法が違っていても自由である。

イ．断面図は構造計画と無関係なので修正不要である。

ウ．要求図書相互の不整合となるため、構造計画に基づいて断面寸法を統一する必要がある。

エ．大きい方の数値を消せば柱自体を描かなくてよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：同一部材として成立しない。

イ：断面図も要求図書である。

ウ：平面・断面・計画の要点に示す構造内容は相互に整合させる。

エ：構造表現が不足する。

総合解説：作図後は柱・梁・階高・床レベルを図面間で横断チェックする。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0076

6-3 構造・断面・設備計画 > 構造グリッド・スパン・架構 | 難易度：応用

構造計画の経済性を高める考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．柱スパンを毎区画すべて異なる寸法にする。

イ．要求のない箇所まで全て超大スパンとする。

ウ．構造経済性は令和8年課題で考慮不要である。

エ．必要以上にスパンや部材種を増やさず、規則的なグリッドと標準化しやすい部材構成を基本とする。

答え・解説

正答：エ

ア：部材種類と施工手間が増えやすい。

イ：部材重量・コストが増える。

ウ：公式留意事項に経済性が明記されている。

エ：規則性は設計・製作・施工の合理化と材料効率に寄与する。

総合解説：構造計画は『安全ならよい』だけでなく、明快性・合理性・経済性も評価する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0077

6-3 構造・断面・設備計画 > 構造グリッド・スパン・架構 | 難易度：応用

計画の要点等で構造計画を説明する内容として、最も適切なものはどれか。

ア．構造種別、架構形式、スパン割り、主要部材断面、耐震要素配置などを計画意図と結び付けて具体的に記述する。

イ．『安全な構造とした』だけで具体内容を書かない。

ウ．設備機器のメーカー名だけを書く。

エ．平面図と異なる構造種別を記述する。

答え・解説

正答：ア

ア：JAEICの公表課題では架構形式・スパン割り・部材計画を適切に行うことが求められている。

イ：根拠・計画内容が伝わらない。

ウ：構造計画の説明ではない。

エ：図面相互の不整合となる。

総合解説：計画の要点は図面を補足し、なぜその構造計画としたかを具体的に伝える。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0078

6-3 構造・断面・設備計画 > 階高・断面・階段・昇降機 | 難易度：基礎

宴会場の天井内に大断面ダクトが通る場合の階高設定として、最も適切なものはどれか。

ア．天井高だけで階高を決め、梁・ダクトは後から重ねる。

イ．必要天井高、梁せい、ダクト高さ・保守空間を積み上げて必要階高を設定する。

ウ．梁せいを0として考える。

エ．設備スペースは断面図に描かないので考慮不要とする。

答え・解説

正答：イ

ア：納まりが成立しない可能性が高い。

イ：階高は室内天井高だけでなく、構造梁と設備スペースを含む断面構成で決まる。

ウ：構造が成立しない。

エ：実際の建築空間として必要である。

総合解説：断面計画では『床厚＋梁せい＋設備スペース＋天井高』の関係を早期に確認する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0079

6-3 構造・断面・設備計画 > 階高・断面・階段・昇降機 | 難易度：基礎

ホテルのロビーに開放感を持たせる計画として、最も適切なものはどれか。

ア．吹抜けを設けるだけで防火・構造条件を確認しない。

イ．上階客室床をロビー空間へ貫通させる。

ウ．必要に応じて吹抜けや高い天井を設けつつ、上階動線・構造・設備・防火条件と整合させる。

エ．天井高を確保するため設備を全て屋内に露出させれば無条件に良い。

答え・解説

正答：ウ

ア：重大な不整合を生じる。

イ：空間が成立しない。

ウ：空間の魅力は断面構成でつくられるが、他条件との整合が不可欠である。

エ：設計意図・設備条件を検討する必要がある。

総合解説：断面図は立体構成、階高、吹抜け、構造、設備の整合を示す重要な要求図書である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0080

6-3 構造・断面・設備計画 > 階高・断面・階段・昇降機 | 難易度：基礎

階高4.0mを蹴上げ200mmで上る階段を計画する場合、必要な蹴上げ数として正しいものはどれか。

ア．蹴上げ10段として上昇高さ2,000mmを確保する場合：10

イ．蹴上げ16段として上昇高さ3,200mmを確保する場合：16

ウ．蹴上げ40段として1段100mm相当で扱う場合：40

エ．階高4,000mmを蹴上げ200mmで除して段数を求める場合：20

答え・解説

正答：エ

ア：2,000mmしか上れない。

イ：3,200mmしか上れない。

ウ：蹴上げ100mm相当となり与条件と一致しない。

エ： $4,000\text{mm} \div 200\text{mm} = 20$ 段の蹴上げが必要である。

総合解説：階段計画では階高から蹴上げ数を先に求め、踊場・踏面を含めて必要平面寸法を確保する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0081

6-3 構造・断面・設備計画 > 階高・断面・階段・昇降機 | 難易度：標準

2階平面図では階段があるが3階平面図で同じ階段が消えている場合の評価として、最も適切なものはどれか。

- ア．階段が途中で途切れる重大な上下階不整合となるため、必要階まで連続させる。
- イ．各階平面図は独立しているので問題ない。
- ウ．断面図に描かなければ階段は不要である。
- エ．3階へは通常EVだけで行けばよいので階段不要とする。

答え・解説

正答：ア

ア：階段は垂直動線・避難経路として上下階で連続して成立する必要がある。
イ：建築物として連続していない。
ウ：要求動線が成立しない。
エ：避難条件等を満たさない。
総合解説：上下階チェックでは階段・EV・吹抜け・PS・柱を重点的に確認する。
対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0082

6-3 構造・断面・設備計画 > 階高・断面・階段・昇降機 | 難易度：標準

エレベーターを断面計画へ反映する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．EVピットは不要で、基礎梁と完全に重ねてよい。
- イ．昇降路だけでなく、ピット、上部クリアランス、必要な機器・保守スペースを考慮する。
- ウ．最上階天井高さだけ見て上部スペースは考えない。
- エ．EVシャフトを階ごとにずらす。

答え・解説

正答：イ

ア：納まり確認が必要である。
イ：EVは平面上の箱だけではなく、上下方向に連続した設備である。
ウ：昇降機設備として必要な空間がある。
エ：垂直搬送設備として成立しない。
総合解説：EV計画は平面・断面・構造基礎・設備の各条件を一体で確認する。
対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0083

6-3 構造・断面・設備計画 > 階高・断面・階段・昇降機 | 難易度：標準

屋上に空調機器を設置する場合の断面計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．防水層へ機器を直接置き、固定しない。
- イ．点検通路を設けず機器を密集配置する。
- ウ．機器高さ、架台、防水、防音・防振、点検通路、周辺への影響を考慮して配置する。
- エ．客室窓前へ騒音機器を無対策で配置する。

答え・解説

正答：ウ

ア：防水破損・転倒の危険がある。

イ：保守が困難である。

ウ：屋上設備は建築高さ・景観・騒音・防水・保守性へ影響する。

エ：快適性を損なう。

総合解説：屋上設備は『空いた屋上へ置く』のではなく、建築計画の一部として配置する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0084

6-3 構造・断面・設備計画 > 階高・断面・階段・昇降機 | 難易度：標準

地下階に機械室を設ける場合の計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．地下水や雨水浸入を一切考慮しない。
- イ．機器更新経路を設けない。
- ウ．換気が必要な機器でも外気経路を設けない。
- エ．浸水リスク、機器搬入、換気、排水、床レベル、保守経路を考慮する。

答え・解説

正答：エ

ア：機器損傷の重大リスクとなる。

イ：維持管理できない。

ウ：設備機能が成立しない。

エ：地下設備室は水害・搬入・換気条件が厳しくなるため、断面計画で十分に検討する。

総合解説：設備室は初期建設時だけでなく、将来の更新・災害時の安全も考慮する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0085

6-3 構造・断面・設備計画 > 階高・断面・階段・昇降機 | 難易度：標準

断面図で建物の立体構成を明確に伝えるために特に重要な情報として、最も適切なものはどれか。

- ア．各階床レベル、階高、天井高、梁・床、屋根・吹抜け等の高さ関係
- イ．各室の家具メーカー名だけ
- ウ．外構植栽の種類だけ
- エ．答案用紙の余白寸法だけ

答え・解説

正答：ア

ア：断面図は平面図では分りにくい鉛直方向の関係を示す。

イ：高さ関係を説明できない。

ウ：断面図の中心的情報ではない。

エ：建築計画ではない。

総合解説：平面図と断面図の床レベル・吹抜け・階段・梁位置を一致させることが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0086

6-3 構造・断面・設備計画 > 階高・断面・階段・昇降機 | 難易度：応用

同種の客室階が複数階連続するホテルで、階高を計画する考え方として最も適切なものはどれか。

- ア．客室階ごとに理由なく大きく異なる階高とする。
- イ．客室天井高、梁・床厚、設備配管・ダクトを満たす合理的な標準階高を設定し、反復利用する。
- ウ．設備スペースを無視して最小階高だけを選ぶ。
- エ．各階で柱・EV位置も同時に変える。

答え・解説

正答：イ

ア：外観・構造・設備が複雑になる。

イ：標準階の反復は構造・設備・施工・外観の合理化につながる。

ウ：天井内納まりが成立しない。

エ：標準階の合理性を失う。

総合解説：ホテルの標準客室階は反復性を活かし、構造・設備モジュールを揃えると計画しやすい。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0087

6-3 構造・断面・設備計画 > 階高・断面・階段・昇降機 | 難易度：応用

コア断面を計画する場合の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．平面図だけ成立すれば断面での干渉は考えない。

イ．DSを階ごとに別位置へ移す。

ウ．階段、EV、PS・DS等の上下連続性と、梁・床・防火区画の納まりを同時に確認する。

エ．EV上部に梁を貫通させる前提で無検討とする。

答え・解説

正答：ウ

ア：実際には梁・設備・階段が干渉し得る。

イ：縦ダクトとして成立しにくい。

ウ：コアは複数の垂直要素が集中するため、断面整合が重要である。

エ：昇降路として支障となる。

総合解説：コアは平面の省スペースだけでなく、鉛直方向の連続性・防火・保守性を確認する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0088

6-3 構造・断面・設備計画 > 空調・給排水・電気設備スペース | 難易度：基礎

大規模な宴会場へ空調する機械室の配置として、最も適切なものはどれか。

ア．宴会場から最も遠い位置へ置き、ダクト経路を何度も折り曲げる。

イ．機器搬入経路を設けない。

ウ．機械室騒音を考慮せず客室へ直接隣接させる。

エ．大風量ダクトの経路が過度に長くならず、保守・外気導入・騒音対策も可能な位置に配置する。

答え・解説

正答：エ

ア：圧力損失・スペースが増える。

イ：更新・保守が困難である。

ウ：快適性を損なう。

エ：空調機械室の位置はダクト長・シャフト寸法・天井内スペースに大きく影響する。

総合解説：設備室位置は負荷中心、ダクト・配管ルート、保守、騒音を総合して決める。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0089

6-3 構造・断面・設備計画 > 空調・給排水・電気設備スペース | 難易度：基礎

各階へ空調ダクトを立ち上げるDSの配置として、最も適切なものはどれか。

ア．上下階で可能な限り同位置に連続させ、梁や主要構造部材との干渉を避ける。

イ．階ごとに反対側へ移動させる。

ウ．梁中央を無検討で貫通させる。

エ．DSを設けず全ての縦ダクトを客室内に露出させる。

答え・解説

正答：ア

ア：縦ダクトは上下階で連続するため、階ごとに位置が変わると横引き・梁貫通が増える。

イ：設備経路が複雑になる。

ウ：構造上問題となる。

エ：用途・快適性に適さない場合が多い。

総合解説：PS・DS・EPSなどの縦シャフトは上下階整合チェックの重要項目である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0090

6-3 構造・断面・設備計画 > 空調・給排水・電気設備スペース | 難易度：基礎

ホテル客室の浴室・便所まわりのPS配置として、最も適切なものはどれか。

ア．PSを水回りから最も遠い建物端部へ配置する。

イ．排水横引きを短くできるよう水回りへ近接させ、上下階で同位置にまとめる。

ウ．階ごとに水回り位置を大きくずらす。

エ．排水管には勾配が不要なのでどこへでも配管できると考える。

答え・解説

正答：イ

ア：横引き排水が長くなる。

イ：排水管は勾配が必要なため、PSまでの距離が長いほど天井内スペースを圧迫する。

ウ：縦配管が複雑になる。

エ：自然流下排水では勾配が必要である。

総合解説：ホテル客室では水回り・PSの反復配置が設備効率と施工合理性に有効である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0091

6-3 構造・断面・設備計画 > 空調・給排水・電気設備スペース | 難易度：標準

EPSの配置として、最も適切なものはどれか。

ア．客室クローゼット奥にのみ設け、客室を通らないと点検できない。

イ．階ごとに大きく位置をずらす。

ウ．各階へ電力・通信幹線を効率よく配線でき、共用部から点検可能な位置に上下連続して設ける。

エ．EPS内を給排水管で完全に占有する。

答え・解説

正答：ウ

ア：保守性が低い。

イ：幹線ルートが複雑になる。

ウ：EPSは幹線の垂直経路であり、保守時に客室を通らずアクセスできることが望ましい。

エ：電気設備の安全・保守上不適切である。

総合解説：設備シャフトは必要面積だけでなく、点検扉・防火処理・他設備との分離を考える。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0092

6-3 構造・断面・設備計画 > 空調・給排水・電気設備スペース | 難易度：標準

電気室・受変電設備の配置として、最も適切なものはどれか。

ア．機器より小さい扉しか設けない。

イ．浸水しやすい最下部へ無対策で配置する。

ウ．宿泊客が自由に入れるラウンジ内へ露出配置する。

エ．外部からの機器搬入・更新が可能で、浸水リスクや他用途への騒音・安全性も考慮した位置とする。

答え・解説

正答：エ

ア：搬入・更新ができない。

イ：停電・故障リスクが高い。

ウ：安全・管理上不適切である。

エ：大型電気機器は将来更新を含めた搬入経路と安全な設置環境が必要である。

総合解説：設備室は初期施工だけでなく、維持管理・更新・災害リスクを含めて位置を決める。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0093

6-3 構造・断面・設備計画 > 空調・給排水・電気設備スペース | 難易度：標準

ホテルの給水設備を計画する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．建物高さ・必要水圧・給水量等から給水方式を選定し、受水槽・ポンプ等が必要な適切な機械スペースを確保する。
- イ．給水方式を決めず、受水槽もポンプも空き場所へ後から置く。
- ウ．建物高さは必要水圧に影響しない。
- エ．機器保守スペースを一切設けない。

答え・解説

正答：ア

ア：設備方式の選択は必要な室・配管シャフト・保守空間へ直接影響する。

イ：計画が破綻しやすい。

ウ：給水圧力条件に関係する。

エ：維持管理できない。

総合解説：設備方式をエスキス初期に仮定し、必要スペースを平面・断面へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0094

6-3 構造・断面・設備計画 > 空調・給排水・電気設備スペース | 難易度：標準

ホテル厨房の排気ダクト計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．客室窓の直前へ排気する。
- イ．臭気・油煙の影響を考慮し、客室や外気取入口へ悪影響を与えにくい経路・排気位置とする。
- ウ．外気取入口のすぐ隣へ排気口を設ける。
- エ．ダクト清掃・点検を考慮しない。

答え・解説

正答：イ

ア：臭気・油煙の影響が大きい。

イ：厨房排気は一般換気より汚染負荷が高く、経路・清掃性・排気位置が重要である。

ウ：排気を再吸込みするおそれがある。

エ：油脂付着等への保守が必要である。

総合解説：設備開口部の位置は外観だけでなく、風向・臭気・騒音・保守性から決める。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0095

6-3 構造・断面・設備計画 > 空調・給排水・電気設備スペース | 難易度：標準

ホテル客室の換気計画として、最も適切な考え方はどれか。

ア．便所から客室へ臭気を送る方向に送風する。

イ．外気を一切取り入れない。

ウ．居室へ必要な外気を供給し、浴室・便所等の汚染空気を適切に排出する空気流れをつくる。

エ．排気口と給気口の位置関係を全く考慮しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：衛生上不適切である。

イ：必要換気量を確保できない。

ウ：清浄側から汚染側へ空気が流れるようにすると衛生的な換気計画となる。

エ：ショートサーキット等が生じる。

総合解説：換気計画は必要風量だけでなく、室間の空気流れと給排気位置まで考える。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0096

6-3 構造・断面・設備計画 > 空調・給排水・電気設備スペース | 難易度：標準

客室に隣接する設備室の騒音・振動対策として、最も適切なものはどれか。

ア．機器を客室壁へ直付けし、防振を一切行わない。

イ．客室の静穏性はホテル計画で考慮不要とする。

ウ．機器騒音は設備室扉を開放すれば必ず小さくなる。

エ．可能なら離隔・緩衝室を設け、必要に応じて防振架台・遮音構造等を採用する。

答え・解説

正答：エ

ア：固体伝搬音が生じやすい。

イ：宿泊快適性の重要項目である。

ウ：むしろ伝搬しやすくなる。

エ：設備騒音は発生源・伝搬経路・受音室の三点で対策する。

総合解説：設備室配置そのものが最も有効な騒音対策になる場合があり、初期ゾーニングで検討する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0097

6-3 構造・断面・設備計画 > 空調・給排水・電気設備スペース | 難易度：応用

大断面ダクトが梁と交差する箇所の計画として、最も適切なものはどれか。

ア．梁下を通す、梁間を利用する、設備ルートを変更するなど、構造安全と必要天井高を両立する方法を検討する。

イ．構造確認なしで梁を大きく切り欠く。

ウ．ダクトを梁内部へ無条件に貫通させる。

エ．干渉は施工者が現場で必ず解決できるので設計では考えない。

答え・解説

正答：ア

ア：設備と構造は同じ天井内スペースを使うため、早期の断面調整が必要である。

イ：構造耐力を損なう。

ウ：構造設計上の検討が必要である。

エ：設計段階で整合させる必要がある。

総合解説：製図試験では詳細設計まで不要でも、主要設備ルートと梁せいの関係が成立している計画が求められる。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0098

6-3 構造・断面・設備計画 > 空調・給排水・電気設備スペース | 難易度：応用

ホテルの省エネルギー計画として、最も適切なものはどれか。

ア．設備効率だけ考え、外皮性能は無関係とする。

イ．外皮の日射・断熱計画と、高効率空調・照明・制御等を組み合わせてエネルギー消費を抑える。

ウ．窓面積を無条件に最大化し、日射制御を行わない。

エ．省エネルギーは令和8年課題の留意事項に含まれない。

答え・解説

正答：イ

ア：建物負荷へ大きく影響する。

イ：令和8年課題では省エネルギーと二酸化炭素排出量削減への配慮が明示されている。

ウ：冷房負荷増大につながる。

エ：明示されている。

総合解説：省エネは建築計画と設備計画の統合テーマであり、計画の要点で説明しやすい。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0099

6-3 構造・断面・設備計画 > 空調・給排水・電気設備スペース | 難易度：応用

エスキスでPS・DS・EPSを計画する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．シャフトは最終作図時に余った隙間へ入れる。

イ．PSとDSは常に同じ最小寸法でよい。

ウ．必要な配管・ダクト・ケーブル量と保守性を見込み、過小にならない寸法を早期に確保する。

エ．設備シャフトは上下階で連続しなくてよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：必要寸法を確保できない可能性が高い。

イ：設備量・用途で必要寸法が異なる。

ウ：シャフトを後から追加すると客室・廊下・構造グリッドを大きく崩すことがある。

エ：縦系統として成立しにくい。

総合解説：設備スペースは構造コアと同様にエスキス初期から位置・寸法を確保する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0100

6-3 構造・断面・設備計画 > 空調・給排水・電気設備スペース | 難易度：応用

答案用紙の「計画の要点等」で、設備計画の具体性を示す記述として最も適切なものはどれか。

ア．『設備は適切に計画した』だけで具体内容を書かない。

イ．平面図にない機械室を文章だけで存在すると説明する。

ウ．設備計画欄に構造部材の材料強度だけを書く。

エ．空調方式、機械室・PS・DS・EPSの配置、設備ルート、省エネ・保守性への配慮を図面と整合させて記述する。

答え・解説

正答：エ

ア：計画内容が伝わらない。

イ：図面との不整合になる。

ウ：設備計画の説明にならない。

エ：計画の要点では図面上の設備計画を具体的な理由とともに説明することが重要である。

総合解説：令和8年課題では空調・給排水衛生・電気・昇降機設備を適切に計画することが公式に求められている。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0101

6-4 要求図書・作図表現 > 各階平面図・面積表 | 難易度：基礎

縮尺1/200の平面図で、実長8.0mの部分答案用紙上に表す長さとして正しいものはどれか。

ア．実長8,000mmを縮尺200で除した場合：40mm

イ．縮尺1/400相当として図上長さを求めた場合：20mm

ウ．縮尺1/100相当として図上長さを求めた場合：80mm

エ．縮尺の比を逆向きに扱って図上長さを求めた場合：160mm

答え・解説

正答：ア

ア：8.0m = 8,000mmであり、 $8,000 \div 200 = 40\text{mm}$ となる。

イ：縮尺1/400相当の長さである。

ウ：縮尺1/100相当の長さである。

エ：縮尺を反対に扱っている。

総合解説：令和8年課題では平面図・配置図及び断面図の縮尺は1/200と公表されている。基本寸法を図上長さへ換算できることは作図精度に直結する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0102

6-4 要求図書・作図表現 > 各階平面図・面積表 | 難易度：基礎

設計製図の各階平面図で、計画内容を読み取れる答案とするために特に重要な情報の組合せとして最も適切なものはどれか。

ア．室名だけ

イ．室名、主要寸法、柱・壁、開口、階段・EV、PS等、主要な家具・設備配置

ウ．家具メーカー名だけ

エ．答案用紙の余白寸法だけ

答え・解説

正答：イ

ア：空間寸法や動線、構造・設備との関係を確認できない。

イ：平面図は室構成だけでなく、構造、垂直動線、設備スペース、利用方法を読み取れるように表現する必要がある。

ウ：建築計画の成立性を示せない。

エ：建築物の計画内容を表す情報ではない。

総合解説：要求図書は採点者が設計と条件への適合と空間構成を確認できるだけの情報量を持たせることが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0103

6-4 要求図書・作図表現 > 各階平面図・面積表 | 難易度：基礎

ある階の外形が $35\text{m} \times 28\text{m}$ で、床面積に算入しない吹抜け部分が $7\text{m} \times 8\text{m}$ ある。課題条件上、この吹抜けを床面積に算入しないものとしたとき、この階の床面積として正しいものはどれか。

ア．外形 $35\text{m} \times 28\text{m}$ だけを床面積とし吹抜けを控除しない場合： 980m^2

イ．吹抜け $7\text{m} \times 8\text{m}$ を2回控除した場合： 868m^2

ウ．外形面積から吹抜け $7\text{m} \times 8\text{m}$ を1回控除した場合： 924m^2

エ．吹抜け面積を外形面積へ加算した場合： $1,036\text{m}^2$

答え・解説

正答：ウ

ア：吹抜け部分を控除していない。

イ：吹抜け部分を2回控除している。

ウ： $35 \times 28 - 7 \times 8 = 980 - 56 = 924\text{m}^2$ である。

エ：外形面積より大きくなっている。

総合解説：過去の公式問題では課題ごとに床面積算入上の特記事項が示される。面積表はその課題固有の条件に従って算定する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0104

6-4 要求図書・作図表現 > 各階平面図・面積表 | 難易度：標準

設計製図試験の面積表を作成する際、ピロティや屋外階段等の床面積算入の扱いについて最も適切な考え方はどれか。

ア．過去問と同じ扱いを毎年無条件に使う。

イ．名称だけで自己流に判断し、問題文を確認しない。

ウ．面積表は概算でよいため算入条件を確認しない。

エ．試験問題に示された面積算定上の特記事項と関係法令を確認し、その課題で指定された扱いに従う。

答え・解説

正答：エ

ア：年度・課題ごとの指定条件が異なる可能性がある。

イ：設計と条件の見落としにつながる。

ウ：面積表は要求図書であり完成・整合が必要である。

エ：過去の公式問題では、特定部分を床面積へ算入するか否かについて課題固有の指示が示される場合がある。

総合解説：本SOURCEでは2026年の詳細問題が未実施・未公表であるため、2026年課題名から具体的な面積算入ルールを推測せず、課題文優先という判断を問う。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0105

6-4 要求図書・作図表現 > 各階平面図・面積表 | 難易度：標準

試験問題で主要要求室として指定された室を、面積表には記載したが平面図に計画し忘れた。最も適切な評価はどれか。

- ア．要求室が実際に計画されていないため、重大な不適合となる可能性が高い。
- イ．面積表に室名があれば平面図の欠落は補える。
- ウ．他の室の面積を増やせば自動的に補える。
- エ．室名を計画の要点に一度書けばよい。

答え・解説

正答：ア

ア：過年度の公式合格基準では、主要要求室・施設等が計画されていない答案を重大な不適合としている。
イ：面積表だけでは室の配置・機能が成立しない。
ウ：指定された要求室そのものの欠落は解消されない。
エ：図面上で要求室が計画されている必要がある。
総合解説：最終チェックでは要求室リストと各階平面図を一対一で照合し、欠落を防ぐ。
対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0106

6-4 要求図書・作図表現 > 各階平面図・面積表 | 難易度：標準

作図終盤に建物外形を1スパン縮小したが、面積表は変更前の数値のままである。最も適切な対応はどれか。

- ア．平面図を優先し、面積表は旧数値のまま提出する。
- イ．平面図の最終外形から面積を再計算し、算定式・各階面積・合計を修正する。
- ウ．面積表の数字を消して空欄にする。
- エ．合計値だけ変更し、算定式は旧外形のままにする。

答え・解説

正答：イ

ア：要求図書相互の不整合となる。
イ：要求図書間の不整合を残さないため、設計変更の波及先として面積表を必ず更新する。
ウ：未完成の面積表は重大な不適合となり得る。
エ：算定根拠と数値が整合しない。
総合解説：変更管理では平面図→面積表→断面図→計画の要点等の順に波及箇所を確認するとよい。
対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0107

6-4 要求図書・作図表現 > 各階平面図・面積表 | 難易度：標準

1階平面図・配置図において、主出入口と外部アプローチの関係を明確に示す方法として最も適切なものはどれか。

ア．敷地外の道路を全て省略し、玄関だけ描く。

イ．建物外形だけ描き、出入口位置を示さない。

ウ．道路、敷地境界、建物出入口、歩行者・車両の主要動線、車寄せ等を相互関係が分かるように描く。

エ．車寄せを平面図内部の客室内に記載する。

答え・解説

正答：ウ

ア：敷地とのアクセス関係が読み取りにくい。

イ：外部動線が成立しているか確認できない。

ウ：1階平面図・配置図は建物内部だけでなく、敷地と周辺から建物へ至るアクセスを表現する要求図書である。

エ：配置図としての位置関係が成立しない。

総合解説：配置図では周辺環境・既存建築物への配慮も読み取れるようにすることが令和8年課題と整合する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0108

6-4 要求図書・作図表現 > 各階平面図・面積表 | 難易度：応用

2階平面図の吹抜け位置と3階平面図の床・室配置が矛盾している場合の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．各階平面図は独立した図なので矛盾していてもよい。

イ．断面図を描かなければ矛盾は問題にならない。

ウ．吹抜けの文字だけ消せば床位置は確認しなくてよい。

エ．吹抜けの上下関係を確認し、各階平面図と断面図を同じ立体構成になるよう修正する。

答え・解説

正答：エ

ア：一つの建築物として立体的に成立しない。

イ：断面図も要求図書であり、平面同士の矛盾も残る。

ウ：実際の立体構成を整合させる必要がある。

エ：過年度の公式合格基準では、上下階の重大な不整合を重大な不適合として扱っている。

総合解説：上下階チェックでは柱、階段、EV、吹抜け、PS・DS・EPS、外壁位置を重点確認する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0109

6-4 要求図書・作図表現 > 各階平面図・面積表 | 難易度：応用

過年度の公式合格基準に照らして、面積表をほとんど空欄のまま提出した場合の評価リスクとして最も適切なものはどれか。

- ア．要求図書が完成していない重大な不適合としてランクIV相当と判断される可能性がある。
- イ．平面図が完成していれば必ずランクIとなる。
- ウ．面積表は参考資料なので採点対象外である。
- エ．面積表未完成は必ず軽微な減点だけで済む。

答え・解説

正答：ア

ア：令和7年の公式合格基準では「面積表が完成されていないもの」を重大な不適合として明示している。
イ：面積表も要求図書であり、未完成は重大な問題となる。
ウ：公式に要求図書として扱われている。
エ：重大な不適合として扱われ得る。
総合解説：時間切れ対策では、要求図書を一面でも欠かさないことを最優先にする。
対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0110

6-4 要求図書・作図表現 > 断面図・高さ・主要寸法 | 難易度：基礎

要求される断面図の切断位置を選ぶ場合の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．建物の外側だけを通し、内部空間を一切示さない。
- イ．吹抜け、大空間、階段、EV等の主要な立体構成と階高・高さ関係を説明しやすい位置を選ぶ。
- ウ．主要空間を避け、倉庫だけを通すことを常に優先する。
- エ．平面図の計画と無関係な位置を断面として描く。

答え・解説

正答：イ

ア：立体構成を説明しにくい。
イ：断面図は平面図では伝わりにくい鉛直方向の計画を示すため、計画上重要な部分を通すのが有効である。
ウ：設計意図を伝えにくい。
エ：図面間不整合となる。
総合解説：断面位置は作図開始前に平面図上で明確にし、平面・断面を対応させる。
対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0111 6-4 要求図書・作図表現 > 断面図・高さ・主要寸法 | 難易度：基礎

断面図で1FL、2FL、3FL、RFL等を表記する主な目的として最も適切なものはどれか。

ア．各階の室名を省略するため。

イ．面積表を不要にするため。

ウ．各階の床高さと階高、屋根高さ等の鉛直関係を明確にするため。

エ．構造部材を描かなくてよくするため。

答え・解説

正答：ウ

ア：床レベル表示と室名は役割が異なる。

イ：面積表は別の要求図書である。

ウ：床レベルは平面図では表現しにくい高さ関係を読み取る基本情報である。

エ：構造・断面表現は別途必要である。

総合解説：過去の標準解答例でもGL、各階FL、RFL等のレベル表示が用いられている。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0112 6-4 要求図書・作図表現 > 断面図・高さ・主要寸法 | 難易度：標準

道路斜線等の高さ制限への適合確認が必要な計画で、答案に最も必要な対応はどれか。

ア．適合しているつもりなら寸法・高さ情報は一切書かない。

イ．建築物高さを平面図の室名欄だけに書く。

ウ．道路条件を無視して最高高さだけを大きくする。

エ．道路境界、後退距離、建物高さ等、適合を確認できる必要情報を図面に明示する。

答え・解説

正答：エ

ア：採点者が適合を確認できない。

イ：高さ制限の確認情報として不十分である。

ウ：法令不適合のリスクがある。

エ：令和7年の公式資料では、高さ制限への適合が確認できる情報の未記載が基礎的な不適合例として示されている。

総合解説：法令適合は計画するだけでなく、答案上で検証可能な情報として表現することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0113 6-4 要求図書・作図表現 > 断面図・高さ・主要寸法 | 難易度：標準

平面図で2層分の吹抜けを計画した場合の断面図として、最も適切なものはどれか。

ア．吹抜け部分に中間床がないことを示し、周囲の床・梁・天井との高さ関係を明確にする。

イ．吹抜け中央に通常床を連続して描く。

ウ．吹抜けの高さを1階分だけにする。

エ．断面図では吹抜けを全て壁で閉じる。

答え・解説

正答：ア

ア：断面図は吹抜けが実際に立体的に成立していることを示す。

イ：平面図の吹抜けと矛盾する。

ウ：2層吹抜けの条件と一致しない。

エ：平面図との整合が取れない。

総合解説：吹抜けは平面・断面・防火区画を同時に確認する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0114 6-4 要求図書・作図表現 > 断面図・高さ・主要寸法 | 難易度：標準

階段の平面図では段数が確保されているが、断面図では踊場が梁に衝突して必要な頭上空間が取れない。最も適切な対応はどれか。

ア．平面図で描けているので断面の干渉は無視する。

イ．階高・段数・踊場・梁位置を再調整し、平面と断面の両方で階段が成立するよう修正する。

ウ．梁を図面上だけ消して構造計画は変更しない。

エ．踊場をなくし、階段条件を確認せず急勾配にする。

答え・解説

正答：イ

ア：実際に使用できない階段となる。

イ：階段は平面寸法だけでなく、鉛直方向のクリアランスも成立させる必要がある。

ウ：構造との不整合が残る。

エ：安全・法規上問題となり得る。

総合解説：過年度の公式資料でも「階段の不成立」は基礎的な不適合例として挙げられている。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0115

6-4 要求図書・作図表現 > 断面図・高さ・主要寸法 | 難易度：標準

エレベーターを断面図へ表現する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．EVピット位置へ基礎梁を無条件に通す。

イ．最上階で昇降路を突然横へ移動させる。

ウ．昇降路の上下連続性に加え、ピットや上部空間が構造体・基礎・屋根と干渉しないことを確認する。

エ．断面図ではEVを階段に置き換えてよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：干渉を解消する構造計画が必要である。

イ：昇降機として成立しない。

ウ：EVは鉛直方向に連続する設備であり、平面図の箱だけでは成立性を確認できない。

エ：要求設備との不整合になる。

総合解説：昇降機は平面・断面・構造・設備の整合確認項目である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0116

6-4 要求図書・作図表現 > 断面図・高さ・主要寸法 | 難易度：応用

屋上設備スペースを設ける場合の断面計画として、最も適切なものはどれか。

ア．屋上設備は高さ制限に一切影響しないと決めつける。

イ．設備機器の高さを答案に全く考慮しない。

ウ．点検用のアクセスを設けない。

エ．設備機器・架台・目隠し等の高さ、法規上の高さ条件、保守経路を合わせて確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：設備・工作物等の扱いを条件に応じて確認する必要がある。

イ：断面計画との整合が取れない。

ウ：維持管理ができない。

エ：屋上設備は建物の最高高さや斜線、景観、保守性へ影響する場合がある。

総合解説：断面図では屋上設備を単なる記号ではなく、建築高さ・設備機能との関係で確認する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0117 6-4 要求図書・作図表現 > 断面図・高さ・主要寸法 | 難易度：応用

断面図に記入する主要寸法として、最も有効な組合せはどれか。
ア．階高、主要天井高、建物高さ、床レベル、必要な後退距離等
イ．家具の製品番号だけ
ウ．室内仕上げ材の価格だけ
エ．答案用紙の紙厚だけ

答え・解説

正答：ア

ア：鉛直計画・法規・空間性を確認できる寸法を優先して示す。
イ：断面計画の検証に使えない。
ウ：寸法情報ではない。
エ：建築計画と無関係である。
総合解説：寸法は多ければよいのではなく、採点者が計画成立性を確認できる情報を明確に示す。
対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0118 6-4 要求図書・作図表現 > 記号・表現・図面間整合 | 難易度：基礎

平面図で防火設備等を記号で示す場合の表現として、最も適切なものはどれか。
ア．同じ記号を階ごとに異なる意味で使う。
イ．答案内で記号の意味を凡例等により明確にし、同じ意味には同じ記号を一貫して用いる。
ウ．凡例を示さず独自記号を多数使う。
エ．防火設備の位置と無関係な場所へ記号を並べる。

答え・解説

正答：イ

ア：読み手が判別できない。
イ：記号は情報を簡潔に伝える手段であり、意味と使い方が統一されて初めて機能する。
ウ：意味を確認できない。
エ：計画内容と一致しない。
総合解説：過去の標準解答例でも耐火構造、防火設備等の凡例が用いられている。
対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0119

6-4 要求図書・作図表現 > 記号・表現・図面間整合 | 難易度：基礎

各階平面図の階段にUP・DN等を記載する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．全階で同じ方向にUPだけを書く。

イ．階段位置が上下階でずれていても矢印だけ合わせる。

ウ．その階から見た上り・下り方向と上下階平面図の階段位置が一致するように表現する。

エ．矢印方向は任意でよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：階によって上り・下り関係が異なる。

イ：物理的な不整合は解消されない。

ウ：階段記号は立体的なつながりを伝えるため、上下階で矛盾しないことが重要である。

エ：動線理解を誤らせる。

総合解説：階段は重大不適合を生みやすいので、位置・段数・方向・避難経路を一体で確認する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0120

6-4 要求図書・作図表現 > 記号・表現・図面間整合 | 難易度：標準

1/200平面図の寸法表現として、最も適切なものはどれか。

ア．寸法を全て室内中央へ重ねて室名を読めなくする。

イ．主要スパンを一切示さない。

ウ．同じ寸法を矛盾する数値で複数記載する。

エ．主要な通り芯・スパン・建物外形寸法を、図面を読み取りやすい位置へ整理して記載する。

答え・解説

正答：エ

ア：可読性が低下する。

イ：構造・面積の検証が難しい。

ウ：答案の信頼性を損なう。

エ：寸法情報は構造グリッド、面積、室成立性を検証するために必要である。

総合解説：作図表現は情報量と可読性のバランスを取り、主要寸法を優先する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0121

6-4 要求図書・作図表現 > 記号・表現・図面間整合 | 難易度：標準

避難経路上の扉を平面図へ描く場合の基本的な考え方として、最も適切なものはどれか。

ア：利用・避難・廊下通行を妨げない開閉方向や有効幅員を確認し、扉記号を実際の計画と一致させる。

イ：扉の開閉弧が階段を完全に塞いでも気にしない。

ウ：図面上は引戸、計画の要点では開き戸として矛盾させる。

エ：主要出入口に扉を描かず壁で閉鎖する。

答え・解説

正答：ア

ア：扉の表現は単なる記号ではなく、動線・避難・家具配置の成立性に関係する。

イ：避難・通行を妨げる。

ウ：要求図書間不整合となる。

エ：出入口が成立しない。

総合解説：扉・建具は動線上のクリアランスや防火性能も含めて確認する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0122

6-4 要求図書・作図表現 > 記号・表現・図面間整合 | 難易度：標準

最終30分で階段位置を変更した場合、最も適切な修正手順はどれか。

ア：変更した階の平面図だけ直し、他図面はそのままにする。

イ：変更した全階平面図、断面図、避難動線、必要に応じて計画の要点等を確認し、関連箇所を一貫して修正する。

ウ：時間がないので階段を全図面から消す。

エ：新旧二つの階段を重ねて描き、どちらが正しいか示さない。

答え・解説

正答：イ

ア：上下階・断面との不整合が残る。

イ：一つの変更が複数図面へ波及するため、部分修正だけでは重大な不整合を残す可能性がある。

ウ：要求上必要な階段の欠落となる。

エ：答案が不明瞭になる。

総合解説：終盤の大変更はリスクが高いため、変更時は『関連図書チェック』をセットで行う。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0123

6-4 要求図書・作図表現 > 記号・表現・図面間整合 | 難易度：標準

短時間で作成する設計製図答案の線表現として、最も適切なものはどれか。

ア．全ての線を同じ極太線で重ねる。

イ．主要壁を薄く消えそうな線だけで描く。

ウ．躯体・壁・建具・寸法・家具等を識別しやすい線種・濃さで描き分け、主要情報を読み取りやすくする。

エ．家具を躯体より極端に強調して構造を隠す。

答え・解説

正答：ウ

ア：情報の判別がしにくい。

イ：建物構成を読み取りにくい。

ウ：答案は芸術的な描画よりも、設計内容が明快に読み取れることが重要である。

エ：重要情報の優先順位が逆になる。

総合解説：限られた時間では、線の階層と文字の可読性を統一することが答案品質の安定につながる。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0124

6-4 要求図書・作図表現 > 記号・表現・図面間整合 | 難易度：応用

室名や面積の記載方法として、最も適切なものはどれか。

ア．柱・壁・寸法線の上に文字を重ねて読めなくする。

イ．略号だけを書き、凡例も説明も設けない。

ウ．同じ室に異なる室名を二つ記載する。

エ．室内の主要線と重ならない位置へ、判読可能な大きさで室名・必要な面積等を記載する。

答え・解説

正答：エ

ア：要求室確認が困難になる。

イ：室用途が分からない。

ウ：答案内容が矛盾する。

エ：採点者が要求室の有無・位置を迅速に確認できるようにする。

総合解説：作図表現は設計内容を採点者へ伝達するための手段であり、文字の可読性も重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0125

6-4 要求図書・作図表現 > 記号・表現・図面間整合 | 難易度：応用

最終チェックで最も有効な方法として、どれが適切か。

ア．各要求室・階段・EV・主要設備・面積・構造・外部動線について、平面図・断面図・面積表・計画の要点等を横断して照合する。

イ．平面図の見た目だけ確認して他の要求図書は見ない。

ウ．文字のきれいさを最後まで修正する。

エ．面積表と計画の要点は完成していても読み返さない。

答え・解説

正答：ア

ア：重大な不適合には図面相互の不整合や主要要求室欠落が含まれるため、要求図書をまたいだ確認が有効である。

イ：重大な不整合を見逃す。

ウ：与条件・法規の確認が不足する。

エ：図面との矛盾を見逃す可能性がある。

総合解説：最終確認は『一枚ずつ』だけでなく、『項目ごとに全図書を横断』する方法を組み合わせる。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0126

6-5 計画の要点・総合チェック > 計画の要点・設計意図 | 難易度：基礎

「計画の要点等」で設計意図を説明する文章として、最も適切なものはどれか。

ア．『適切に計画した。』だけで終える。

イ．何に配慮し、どのような計画・配置・構成とし、その結果どのような効果を狙ったかを具体的に記述する。

ウ．一般論だけを長く書き、自分の答案内容には触れない。

エ．図面と反対の計画を文章で説明する。

答え・解説

正答：イ

ア：具体的な設計内容や根拠が伝わらない。

イ：具体的な対象・手段・効果を示すと、図面との対応関係が明確になる。

ウ：設計意図の説明にならない。

エ：要求図書間の不整合となる。

総合解説：計画の要点等は、図面では表現しにくい設計判断と理由を具体的に補足する欄として使う。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0127 6-5 計画の要点・総合チェック > 計画の要点・設計意図 | 難易度：基礎

敷地北側に良好な公園景観があるホテルで、周辺環境への配慮を説明する記述として最も適切なものはどれか。

ア：『周辺環境に配慮した。』だけを書く。

イ：公園側へ設備排気口を集中させたことだけを書く。

ウ：ラウンジや主要客室を公園側へ向け、眺望を活かしつつ開口・外部空間を計画したと具体的に説明する。

エ：図面では公園側に無開口壁なのに、文章だけ眺望を活かしたと書く。

答え・解説

正答：ウ

ア：何をどのように配慮したか分らない。

イ：良好な環境を活かす説明として不適切である。

ウ：周辺環境の特徴と自分の室配置を結び付けることで設計意図が具体化する。

エ：図面と矛盾する。

総合解説：令和8年課題では敷地周辺環境への配慮が明示されているため、具体的な配置・開口・外部空間へ反映させる。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0128 6-5 計画の要点・総合チェック > 計画の要点・設計意図 | 難易度：標準

ホテルのゾーニングについて「計画の要点等」に記述する内容として、最も適切なものはどれか。

ア：室名を一覧で再掲するだけ。

イ：サービス動線をロビー中央に通したことを利点として説明する。

ウ：平面図と異なるゾーニングを文章だけで説明する。

エ：客利用部門とサービス部門を分け、ロビーから客室・共用部へ分かりやすく移動できる構成とした理由を具体的に示す。

答え・解説

正答：エ

ア：部門構成や動線の意図を説明していない。

イ：動線分離の観点で不利である。

ウ：答案の整合性を失う。

エ：令和8年課題では適切なゾーニングと明快な動線計画が公式に求められている。

総合解説：記述では『誰の動線をどう分けたか』『どの部門を近接させたか』まで書くと具体性が高い。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0129

6-5 計画の要点・総合チェック > 計画の要点・設計意図 | 難易度：標準

バリアフリーへの配慮を説明する記述として、最も適切なものはどれか。

- ア．車椅子使用者用駐車区画から主出入口、フロント、EV、客室・共用便所まで段差の少ない連続した経路を確保したと説明する。
- イ．『バリアフリーとした。』だけを書く。
- ウ．車椅子使用者用便房だけを設ければ全経路の段差は説明不要とする。
- エ．平面図に段差があるのに、文章だけ段差なしと書く。

答え・解説

正答：ア

ア：個別設備だけでなく、利用者が目的地まで移動できる連続性を示すことが重要である。

イ：具体性が不足する。

ウ：移動経路の成立が重要である。

エ：図面との不整合となる。

総合解説：令和8年課題で明示されたバリアフリー配慮を、外部から内部までの具体的な経路として説明する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0130

6-5 計画の要点・総合チェック > 計画の要点・設計意図 | 難易度：標準

ホテルのセキュリティについて、最も説得力のある記述はどれか。

- ア．『安全に配慮した。』だけを書く。
- イ．外来利用部門と宿泊者専用部門をゾーニングし、フロントから主要動線を把握しやすく、客室階へのアクセスを管理できる構成としたと説明する。
- ウ．全ての外来者が自由に客室階へ入れることをセキュリティ上の利点とする。
- エ．避難出口を施錠したことを安全対策として説明する。

答え・解説

正答：イ

ア：具体的な方法が示されていない。

イ：ホテルでは不特定多数が利用する共用部と宿泊者専用部の境界を明確にすることが有効である。

ウ：宿泊者のプライバシーを損なう。

エ：避難を妨げる。

総合解説：セキュリティはアクセス制御だけでなく、ゾーニング、管理視線、動線計画と一体で説明する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0131

6-5 計画の要点・総合チェック > 計画の要点・設計意図 | 難易度：標準

レストランと厨房を隣接させた設計意図の説明として最も適切なものはどれか。

ア．空いた場所がそこだけだったからと説明する。

イ．客動線を厨房内へ通すためと説明する。

ウ．配膳・下膳距離を短縮し、客動線とサービス動線の交錯を抑えて運営効率と快適性を高めるためと説明する。

エ．厨房とレストランは無関係なので理由は不要とする。

答え・解説

正答：ウ

ア：設計意図として弱い。

イ：衛生・運営上不適切である。

ウ：隣接関係の理由を機能・動線上の効果まで説明している。

エ：機能的に強い関係がある。

総合解説：計画の要点では、室配置を『近接させた理由』と『分離した理由』の両方から説明できるようにする。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0132

6-5 計画の要点・総合チェック > 計画の要点・設計意図 | 難易度：応用

計画の要点に「南側に庇を設けて日射を遮蔽した」と記述したが、平面・断面図に庇が描かれていない。最も適切な対応はどれか。

ア．文章に書いてあるので図面は修正しない。

イ．図面を優先して記述を読まない前提で提出する。

ウ．庇の代わりに無関係な家具を追加する。

エ．実際の計画に合わせて図面または記述を修正し、要求図書間を整合させる。

答え・解説

正答：エ

ア：設計内容を確認できない。

イ：要求図書の一部として記述も整合が必要である。

ウ：不整合は解消されない。

エ：記述だけの架空の計画は評価しにくく、図面との矛盾を生む。

総合解説：文章と図面は同じ設計を別の方法で表現するため、最終チェックで相互参照する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0133 6-5 計画の要点・総合チェック > 計画の要点・設計意図 | 難易度：応用

過年度の公式合格基準に照らして、「計画の要点等」をほぼ未記入で提出した場合の評価リスクとして最も適切なものはどれか。

- ア．要求図書が完成していない重大な不適合として扱われる可能性がある。
- イ．図面が完成していれば必ず影響しない。
- ウ．未記入のほうが図面を評価しやすい。
- エ．試験終了後に文章だけ追記できる。

答え・解説

正答：ア

ア：令和7年の公式合格基準では「計画の要点等が完成されていないもの」を重大な不適合として明示している。

イ：計画の要点等も要求図書である。

ウ：要求図書未完成となる。

エ：試験時間内に完成させる必要がある。

総合解説：時間配分では、図面だけに時間を使い切らず、計画の要点等を完成させる時間を確保する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0134 6-5 計画の要点・総合チェック > 構造・設備・環境配慮の説明 | 難易度：基礎

答案用紙の記述欄で、採用した構造方式の根拠を具体的に示す説明として最も適切なものはどれか。

- ア．『RC造とした。』だけで理由を書かない。
- イ．採用した構造種別・架構形式と、建物規模・スパン・要求空間に適すると判断した理由を図面と整合させて記述する。
- ウ．図面ではRC造、文章では木造とする。
- エ．構造種別は設備機器メーカー名で説明する。

答え・解説

正答：イ

ア：構造計画の意図が伝わりにくい。

イ：構造計画は名称だけでなく、要求空間と採用理由の関係を示すと具体性が高まる。

ウ：要求図書間の不整合となる。

エ：構造計画の説明ではない。

総合解説：令和8年課題では構造耐力上の安全性・経済性、架構形式、スパン割り、部材断面を適切に計画することが求められている。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0135

6-5 計画の要点・総合チェック > 構造・設備・環境配慮の説明 | 難易度：基礎

大宴会場を無柱空間とした場合の構造計画の説明として、最も適切なものはどれか。

ア．柱をなくしたので構造計画は不要と説明する。

イ．上階柱の荷重は空中で支持されると説明する。

ウ．大スパン梁等を用いて無柱空間を確保し、上階荷重の伝達と梁せい・階高への影響を考慮したと説明する。

エ．梁せいは階高や設備に影響しないと説明する。

答え・解説

正答：ウ

ア：無柱化ほど架構検討が重要になる。

イ：構造的に成立しない。

ウ：空間要求と架構形式・断面計画の関係を具体的に示している。

エ：断面計画と密接に関係する。

総合解説：大空間は構造・設備・断面の統合説明に適した代表的テーマである。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0136

6-5 計画の要点・総合チェック > 構造・設備・環境配慮の説明 | 難易度：基礎

空調計画について具体性の高い説明として、最も適切なものはどれか。

ア．『空調を設けた。』だけを書く。

イ．機械室を図面に描かず文章だけで存在すると説明する。

ウ．ダクト経路を構造梁と無関係に計画したと説明する。

エ．主要室の用途・負荷に応じた空調方式を採用し、機械室やDSを負荷中心に近づけてダクト経路を合理化したと説明する。

答え・解説

正答：エ

ア：方式・配置・意図が分からない。

イ：図面と整合しない。

ウ：設備・構造の整合が不足する。

エ：設備方式、スペース配置、配管・ダクト経路を一体で説明している。

総合解説：令和8年課題では空調設備を適切に計画することが明示されている。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0137

6-5 計画の要点・総合チェック > 構造・設備・環境配慮の説明 | 難易度：標準

客室の給排水計画の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア．水回りを上下階で集約しPSへ近接させ、排水横引きを短くして配管経路と保守性を合理化したと説明する。
- イ．水回りを階ごとにランダム配置し、配管を長くしたことを利点とする。
- ウ．PSを設けず排水管の勾配も考慮しない。
- エ．配管経路は平面・断面と無関係と説明する。

答え・解説

正答：ア

ア：ホテル客室の反復水回りは設備計画の合理化に有効である。

イ：設備効率が低下する。

ウ：給排水計画が成立しない。

エ：建築との整合が必要である。

総合解説：設備説明は、機器名称よりも『なぜその配置・経路が合理的か』を示すとよい。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0138

6-5 計画の要点・総合チェック > 構造・設備・環境配慮の説明 | 難易度：標準

電気設備計画の要点として、最も適切なものはどれか。

- ア．EPSを階ごとに大きくずらしたことを合理化と説明する。
- イ．電気室・EPSを幹線経路と保守性を考えて配置し、各階へ効率よく電力・通信を供給できる計画としたと説明する。
- ウ．電気室への機器搬入経路を設けないことを利点とする。
- エ．電気設備は令和8年課題で考慮不要と説明する。

答え・解説

正答：イ

ア：幹線経路が複雑になる。

イ：設備室・シャフトの位置は供給経路と維持管理性に関係する。

ウ：更新・保守が困難である。

エ：公式留意事項に含まれている。

総合解説：電気設備も空調・給排水・昇降機と同様、配置・経路・保守性を具体的に説明する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0139

6-5 計画の要点・総合チェック > 構造・設備・環境配慮の説明 | 難易度：標準

客用EVとサービスEVを分けた設計意図として、最も適切な説明はどれか。

ア．EVを増やせば避難階段が不要になるためと説明する。

イ．サービスEVを客用ロビーだけに開くためと説明する。

ウ．宿泊者の垂直動線とリネン・食材・廃棄物等のサービス搬送を分離し、快適性・衛生・運営効率を高めるためと説明する。

エ．EV位置はゾーニングと無関係と説明する。

答え・解説

正答：ウ

ア：通常のEVは避難階段の代替ではない。

イ：動線分離の目的に反する。

ウ：昇降機設備を単なる台数ではなく、利用者・サービス動線と結び付けている。

エ：垂直動線の中核である。

総合解説：令和8年課題では昇降機設備を適切に計画することが明示されている。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0140

6-5 計画の要点・総合チェック > 構造・設備・環境配慮の説明 | 難易度：標準

夏季の日射負荷低減を意図して庇・ルーバーを設けた場合の説明として、最も適切なものはどれか。

ア．庇を設けると必ず冬季の日射も全て遮断できるためと説明する。

イ．庇は省エネと無関係と説明する。

ウ．図面に庇がないのに庇を設けたと記述する。

エ．方位に応じて日射を遮蔽し、室内の熱負荷を抑えることで空調エネルギーの削減を図ったと説明する。

答え・解説

正答：エ

ア：方位・季節・形状によって効果は異なる。

イ：日射熱取得の制御に関係する。

ウ：図面と不整合である。

エ：建築的な日射制御と設備負荷低減の因果関係を具体的に示している。

総合解説：令和8年課題の省エネルギー・CO2排出量削減への配慮は、外皮と設備の両面から説明できる。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0141

6-5 計画の要点・総合チェック > 構造・設備・環境配慮の説明 | 難易度：標準

共用ラウンジの環境配慮として、最も適切な説明はどれか。

- ア：外部環境を活かして自然採光を取り入れ、必要に応じて日射制御と高効率照明・制御を組み合わせたと説明する。
- イ：窓を大きくすれば方位に関係なく必ず省エネになると説明する。
- ウ：自然光があるので夜間照明は不要と説明する。
- エ：照明計画は電気設備と無関係と説明する。

答え・解説

正答：ア

ア：自然採光だけに依存せず、眩しさ・熱負荷と人工照明の効率を統合している。

イ：日射熱負荷が増える場合がある。

ウ：ホテルは夜間利用もある。

エ：電気設備・エネルギー計画に関係する。

総合解説：環境配慮は単一技術の羅列ではなく、建築計画と設備制御の組合せで説明する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0142

6-5 計画の要点・総合チェック > 構造・設備・環境配慮の説明 | 難易度：応用

計画の要点等で高評価につながりやすい総合的な説明として、最も適切なものはどれか。

- ア：構造・設備・環境を互いに無関係な一般論として列挙する。
- イ：規則的な構造グリッドに設備シャフトを整合させ、外皮の日射制御で負荷を減らし、設備経路と保守性も合理化したと図面に対応させて説明する。
- ウ：設備のため主要梁を無検討で切断したことを合理化と説明する。
- エ：環境配慮のため避難経路を狭くしたと説明する。

答え・解説

正答：イ

ア：自分の答案との結び付きが弱い。

イ：構造・設備・環境が互いに矛盾せず、一つの建築計画として統合されている。

ウ：構造安全性を損なう。

エ：安全性と両立していない。

総合解説：一級建築士に求められるのは、個別技術を総括して建築物全体を成立させる設計判断である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0143

6-5 計画の要点・総合チェック > 時間配分・重大不適合チェック | 難易度：基礎

設計製図試験の6時間30分を管理する方法として、最も適切なものはどれか。

ア．エスキスに時間制限を設けず、納得するまで作図を始めない。

イ．平面図だけに全時間を使い、面積表・記述は残り時間で考える。

ウ．条件読解・エスキス・作図・記述・最終チェックにそれぞれ締切時刻を設定し、進捗に応じて残り時間を管理する。

エ．時計を一切見ずに作業する。

答え・解説

正答：ウ

ア：後半の要求図書が未完成になるリスクが高い。

イ：要求図書未完成の危険が高い。

ウ：試験時間は6時間30分であり、各要求図書を完成させるための工程管理が必要である。

エ：時間切れリスクを管理できない。

総合解説：具体的な分数は個人差があるためSOURCEでは固定せず、工程ごとの締切管理という原則を問う。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0144

6-5 計画の要点・総合チェック > 時間配分・重大不適合チェック | 難易度：基礎

試験終了30分前に、平面図はほぼ完成しているが面積表と計画の要点等が未完成である。最優先の対応として最も適切なものはどれか。

ア．平面図の家具をさらに細かく描き込む。

イ．面積表は諦めて空欄で提出する。

ウ．計画の要点等は不要と判断して消す。

エ．要求図書を欠けさせないことを優先し、面積表と計画の要点等を完成させた上で全体チェックへ進む。

答え・解説

正答：エ

ア：要求図書未完成を残す方がリスクが大きい。

イ：重大な不適合となる可能性がある。

ウ：令和8年公表課題の要求図書に含まれる。

エ：過年度の公式基準では面積表や計画の要点等の未完成は重大な不適合となり得る。

総合解説：終盤は見栄えより、要求図書完成・主要条件適合・重大不適合回避を優先する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0145

6-5 計画の要点・総合チェック > 時間配分・重大不適合チェック | 難易度：基礎

最終チェックの優先順位として最も適切なものはどれか。

- ア．要求図書欠落、主要要求室欠落、法令重大不適合、階段・EV等の上下階不整合を先に確認し、その後に細かな表現を確認する。
- イ．文字の美しさだけを最初から最後まで確認する。
- ウ．家具の種類だけを確認し、階段は見ない。
- エ．面積表が空欄でも線の濃さを優先する。

答え・解説

正答：ア

ア：合否へ大きく影響する重大不適合を先に潰すことが合理的である。

イ：重大な設計不適合を見逃す。

ウ：階段不成立は重大な問題となり得る。

エ：優先順位が逆である。

総合解説：チェックは『致命傷→重要条件→品質向上』の順に行うと時間を有効に使える。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0146

6-5 計画の要点・総合チェック > 時間配分・重大不適合チェック | 難易度：標準

過年度の公式合格基準に照らして、要求図面のうち1面をまったく描かずに提出した場合の評価として最も適切なものはどれか。

- ア．残りの図面が上手ければ必ずランクIとなる。
- イ．要求図面欠落による重大な不適合として扱われる可能性が高い。
- ウ．図面1面の欠落は文字の誤記と同程度である。
- エ．答案用紙に氏名を書けば図面欠落は補える。

答え・解説

正答：イ

ア：要求図面欠落は重大な不適合となり得る。

イ：令和7年公式基準では「要求図面のうち1面以上欠けるもの」を重大な不適合として明示している。

ウ：影響の大きさが異なる。

エ：要求図書の代替にはならない。

総合解説：時間切れで一面を白紙にすることを避け、全要求図書を完成状態へ持っていく。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0147

6-5 計画の要点・総合チェック > 時間配分・重大不適合チェック | 難易度：標準

3階建ての計画で、2階から3階へ至る必要な階段が平面図上で欠落している。最も適切な判断はどれか。

ア：EVがあるので階段欠落は必ず問題にならない。

イ：階段は断面図にだけ描けば平面図には不要である。

ウ：上下階の重大な不整合・階段欠落として重大な不適合になり得るため、最優先で修正する。

エ：階段欠落より家具の描き込みを優先する。

答え・解説

正答：ウ

ア：通常のEVは必要な避難階段の代替とはならない。

イ：要求図書間の整合が必要である。

ウ：過年度の公式基準では図面相互の重大な不整合や階段の欠落・不成立が重大問題として挙げられている。

エ：重大な不適合の修正を優先すべきである。

総合解説：階段は各階の位置・上り下り・段数・断面・避難経路をセットで確認する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0148

6-5 計画の要点・総合チェック > 時間配分・重大不適合チェック | 難易度：標準

要求室自体は描いているが、「1階に設ける」「外部から直接利用できる」などの特記事項を満たしていない。最も適切な評価はどれか。

ア：室名を書けば特記事項は全て無視できる。

イ：特記事項は参考なので採点されない。

ウ：面積を大きくすれば位置条件の違反は自動的に解消する。

エ：室の存在だけでなく特記事項も設計条件なので、重要な不適合となり得る。

答え・解説

正答：エ

ア：設計条件全体への適合が必要である。

イ：要求条件の一部である。

ウ：別の設計条件であり代替できない。

エ：過年度の公式資料では要求室・施設等の特記事項の不適合が基礎的な不適合例として示されている。

総合解説：最終チェックでは『室の有無』と『面積・階・隣接・外部接続等の特記事項』を分けて確認する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0149

6-5 計画の要点・総合チェック > 時間配分・重大不適合チェック | 難易度：標準

最終チェックで優先して確認すべき法令関連項目として、最も適切なものはどれか。

ア．直通階段、避難経路、防火区画、高さ制限等、その答案で適用される重大な法令条件の適合を再確認する。

イ．法令チェックは学科試験だけの内容なので製図では不要とする。

ウ．図面がきれいなら法令違反は評価されない。

エ．法令条件は試験後に修正できる前提で提出する。

答え・解説

正答：ア

ア：過年度の公式合格基準では、直通階段の重複区間、高さ制限、延焼ライン・防火設備等の重大不適合が例示されている。

イ：設計製図でも関係法令への適合が必要である。

ウ：法令重大不適合は合否に大きく影響する。

エ：答案提出時に適合している必要がある。

総合解説：2026年の詳細課題条件は試験実施前のため未公表であり、具体的適用条文は当日の問題条件に従って確認する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0150

6-5 計画の要点・総合チェック > 時間配分・重大不適合チェック | 難易度：応用

提出直前に限られた時間で答案全体を確認する方法として、最も適切なものはどれか。

ア．その場で思い付いた箇所だけをランダムに見る。

イ．要求図書完成、要求室・特記事項、法規、上下階・断面整合、面積、記述整合のようにチェック順を固定して確認する。

ウ．最終確認を行わず、残り時間は全て文字の書き直しに使う。

エ．一つの平面図だけを繰り返し見て他図書を確認しない。

答え・解説

正答：イ

ア：重要項目を確認し忘れる可能性が高い。

イ：毎回同じ順序で重大項目から確認すると、焦っていても見落としを減らしやすい。

ウ：重大な不整合を見逃す。

エ：図面間不整合を見逃す。

総合解説：設計製図は知識だけでなく時間内に検証まで完了させる技能が問われる。チェックリストを固定化すると再現性が高まる。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01